

基礎演習 I

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

小説や詩を読むのは好きなのだがそれを「研究」という意味や方法が分からない、という声を学生からよく聞きます。本演習では、図書館の利用方法、文献探索や研究のやり方等の基礎を身につけ、自分なりの問題点を発見し、調査、分析、統合等を通じてそれを知的に解決してゆく楽しさを知ってもらいたいと思います。

【授業の展開計画】

- 1 「知性を鍛える」楽しみ／ガイダンス
- 2 「問題」を発見する
- 3 「情報収集力」をつける／文献・資料を探してみる
- 4 「研究」入門
- 5 「論文」とは何か？／論文やレポートの形式・ルールあれこれ
- 6 レジメ作成
- 7 「表現力」をつける
- 8 「発表力」をつける

【履修上の注意事項】

各自で選んだ自由テーマについての発表を課します。

【評価方法】

- ① 発表 ② 授業への取り組みの姿勢 ③ 出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習 I

担当教員 大野 隆之

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

基礎演習 I

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球のあらゆる文化について、発表者がテーマを決めて発表する。首里城の建築、御嶽、オモロ、古典舞踊・組踊などをはじめ、さまざまな琉球文化があった。そのことを念頭に琉球の言語・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等について、調査し発表する。

発表に先立って、資料の収集だけに限らず、必要に応じて現地調査なども行うこと。

【授業の展開計画】

1. 発表日時と発表内容の確定。
2. レジューメは、パソコンで作成すること。
3. 発表においては、各地方の文化との交流関係をも考える。

【履修上の注意事項】

発表者は無断欠席をしないこと。

【評価方法】

レポート・質疑応答などの平常点・出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、指示する。

基礎演習 I

担当教員 仁野平 智明

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

大学で学ぶために必要な「国語力」の育成を目標とします。前半の授業では発信型の「話す力」「書く力」を中心とした基礎的な日本語運用トレーニングを、後半の授業では、調査・考察・発表を通しての実践的な国語力の育成につながる学習を行います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	自己紹介・ガイダンス
2	力試し?
3	論理・論旨を理解する
4	目的に応じて読む
5	適切に説明する
6	伝達内容と構成を考える
7	情報を選択して活用する
8	調査・考察・発表に必要なこと
9	グループでの研究発表(1)
10	グループでの研究発表(2)
11	グループでの研究発表(3)
12	グループでの研究発表(4)
13	グループでの研究発表(5)
14	グループでの研究発表(6)
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻はしないこと。

【評価方法】

発表、授業への取り組み、出席などをもとに総合的に評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習 I

担当教員 田場 裕規

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講は大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の習得と養成を目的とする。即ち、情報収集力、分析力、思考力、批判力、発表力、論文記述力等、言語を中心とした能力を自律的かつ協同的に学ぶことを目指し、日本文化学科における学びの基礎を養成する。

【授業の展開計画】

第1回～第9回までは、テキストを用いて講義及びグループワークを行い、第10回～第15回まではグループ発表の予定。グループ発表は、古典文学や古典語に関する調査を踏まえた発表とし、テーマはグループ分け終了後に提示する。

- 1 オリエンテーション①
- 2 オリエンテーション②
- 3 合同基礎演習①（図書館）
- 4 レポート作成方法
- 5 合同基礎演習②（キャリアガイダンス）
- 6 レジューメ作成の方法
- 7 発表の方法
- 8 論文の技術
- 9 研究討議の方法
- 10 グループ発表①
- 11 グループ発表②
- 12 グループ発表③
- 13 グループ発表④
- 14 グループ発表⑤
- 15 グループ発表⑥

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジューメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。④テキストを熟読すること。

【評価方法】

単純に（出席点＋A4課題点＋グループ発表点）÷3＝成績評価とする。

【テキスト】

荻谷剛彦『知的複眼思考法—誰でも持っている創造力のスケッチ』（講談社＋α文庫）880円

【参考文献】

必要に応じて指示する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

小説や詩を読むのは好きなのだがそれを「研究」という意味や方法が分からない、という声を学生からよく聞きます。本演習では、図書館の利用方法、文献探索や研究のやり方等の基礎を身につけ、自分なりの問題点を発見し、調査、分析、統合等を通じてそれを知的に解決してゆく楽しさを知ってもらいたいと思います。

【授業の展開計画】

- 1 「知性を鍛える」楽しみ／ガイダンス
- 2 「問題」を発見する
- 3 「情報収集力」をつける／文献・資料を探してみる
- 4 「研究」入門
- 5 「論文」とは何か？／論文やレポートの形式・ルールあれこれ
- 6 レジメ作成
- 7 「表現力」をつける
- 8 「発表力」をつける

【履修上の注意事項】

各自で選んだ自由テーマについての発表を課します。

【評価方法】

- ① 発表 ② 授業への取り組みの姿勢 ③ 出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

適宜指示します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 大野 隆之

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

大学生としてのアカデミックスキルを習得する。
授業の一部時間を古文・漢文のリメディアルに当て、日本文化学科の学生としてふさわしい基礎学力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1, 大学時代の目標設定、学習計画。
- 2, スケジュール管理。
- 3, ノートテイキング、レポートの書き方。
- 4, 古文読解の基礎。
- 5, 漢文読解の基礎。

【履修上の注意事項】

無断欠席は一切認めない。

【評価方法】

課題の提出状況による。内容の善し悪し以上に、全て提出することを心がける。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献】

基礎演習Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

首里城を中心として、琉球の文化を調査し発表する。首里城の建築や御嶽、そこで行われた儀式、歌われたオモロ、演じられた古典舞踊・組踊、柵封使を迎えての宴、さまざまな琉球文化があった。そのことを念頭に琉球の言語・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等について、発表する。

本演習ではそれらの中から、適当なテーマを選んで発表してもらう。発表に先立っては、資料の収集だけに限らず、必要に応じて現地調査なども行うこと。

【授業の展開計画】

1. 発表日時と発表内容の確定。
2. レジュメは、パソコンで作成すること。
3. 発表においては、首里城内にとどまらず、各地方の文化との交流関係をも考える。

【履修上の注意事項】

発表者は無断欠席をしないこと。

【評価方法】

試験と出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて指示する。

基礎演習Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

大学で学ぶために必要な「国語力」の育成を目標とします。前半の授業では発信型の「話す力」「書く力」を中心とした基礎的な日本語運用トレーニングを、後半の授業では、調査・考察・発表を通しての実践的な国語力の育成につながる学習を行います。

【授業の展開計画】

(基礎演習Ⅰと同じです)

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	
2	力試し?	18	
3	論理・論旨を理解する	19	
4	目的に応じて読む	20	
5	適切に説明する	21	
6	伝達内容と構成を考える	22	
7	情報を選択して活用する	23	
8	調査・考察・発表に必要なこと	24	
9	グループでの研究発表(1)	25	
10	グループでの研究発表(2)	26	
11	グループでの研究発表(3)	27	
12	グループでの研究発表(4)	28	
13	グループでの研究発表(5)	29	
14	グループでの研究発表(6)	30	
15	まとめ	31	
16			

【履修上の注意事項】

無断欠席・遅刻はしないこと。

【評価方法】

発表、授業への取り組み、出席などをもとに総合的に評価します。

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

適宜紹介します。

基礎演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講は大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の習得と養成を目的とする。即ち、情報収集力、分析力、思考力、批判力、発表力、論文記述力等、言語を中心とした能力を自律的かつ協同的に学ぶことを目指し、日本文化学科における学びの基礎を養成する。

【授業の展開計画】

第1回～第9回までは、テキストを用いて講義及びグループワークを行い、第10回～第15回まではグループ発表の予定。グループ発表は、古典文学や古典語に関する調査を踏まえた発表とし、テーマはグループ分け終了後に提示する。

- 1 オリエンテーション①
- 2 オリエンテーション②
- 3 合同基礎演習①（図書館）
- 4 レポート作成方法
- 5 合同基礎演習②（キャリアガイダンス）
- 6 レジューメ作成の方法
- 7 発表の方法
- 8 論文の技術
- 9 研究討議の方法
- 10 グループ発表①
- 11 グループ発表②
- 12 グループ発表③
- 13 グループ発表④
- 14 グループ発表⑤
- 15 グループ発表⑥

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジューメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。④テキストを熟読すること。

【評価方法】

単純に（出席点＋A4課題点＋グループ発表点）÷3＝成績評価とする。

【テキスト】

荻谷剛彦『知的複眼思考法—誰でも持っている創造力のスケッチ』（講談社＋α文庫）880円

【参考文献】

必要に応じて指示する。

人文情報基礎

担当教員 木村 捨雄・島村 岳

配当年次 1年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

日本文化学科の専門課程で修得する文化に関する知識をより広く、多様な手法で表現するためにコンピュータ操作に関する基本的な技術を修得することで、文化研究における情報技術の必要性と可能性を実践的に学習する

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・パソコン教室の利用方法・文化情報学を学ぶ意義
2	コンピュータの基礎知識
3	ワープロソフトの基本操作(1) 文字入力の方法
4	ワープロソフトの基本操作(2) 書式設定・ファイル管理
5	ワープロソフトの基本操作(3) ページ設定
6	ワープロソフトの応用操作(1) 表の作成
7	ワープロソフトの応用操作(2) 図の作成・簡単な画像処理
8	表計算ソフトの基本操作(1) 簡単な関数(計算式の入力)
9	表計算ソフトの基本操作(2) 簡単な関数(計算式の入力)・表作成
10	表計算ソフトの基本操作(3) グラフ作成方法
11	ワープロソフトと表計算ソフトを組み合わせた文書作成
12	インターネットの活用方法(1) Webサイトの活用
13	インターネットの活用方法(3) データベースと情報検索①
14	インターネットの活用方法(4) データベースと情報検索②
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

- 1) 本授業はパソコン初級者・中級者向けの授業と位置づける。
- 2) 各学生の情報技術、知識、希望を考慮し、オリエンテーション時にクラス分けを行う。

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況、テストの点数を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数 $\frac{2}{3}$ に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

- 1) プリントを配布する。
- 2) 授業中に作成するデータの記録媒体として、USBメモリ(256MB~1GB、3000円程度)を各自で準備すること。

【参考文献】

プリントを配布する。

人文情報基礎

担当教員 一芳山 紀子

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

時代はまさに「ネット社会」。世界規模の巨大なネットワークの一構成員として実社会で活躍する人材を育成するためのステップと位置づける。本教科では、Word/Excel/PowerPointの総合的な操作方法を学習し、更に、異なるアプリケーション間のデータ活用がスムーズに行える能力を養うものとする。到達目標は、サーティファイ能力認定試験2級合格レベルとする。また、本講座においては、学生の卒業後における、ビジネス社会で通用するパソコンスキルを総合的に高めることを目的とする。

【授業の展開計画】

- 1回 オリエンテーション、WindowsOSの基本操作、文字入力速度の確認
- 2回 ワープロソフトの基本操作1 メニュー・ツールバーの操作、書式設定、ファイル管理、フォルダ作成と移動
- 3回 ワープロソフトの基本操作2 拡張式設定、ページ設定、クリップアート
- 4回 ワープロソフトの基本操作3 ワードアート、写真の貼り付け、簡単な画像処理
- 5回 ワープロソフトの基本操作4 表作成、罫線の基礎概念と応用
- 6回 ワープロソフトの基本操作5 図形と図形描画 演習問題
- 7回 表計算ソフトの基本操作1 データの入力と修正方法、行列の挿入・削除、簡単な表計算方法1（加算）
- 8回 表計算ソフトの基本操作2 簡単な表計算2（乗算）、グラフ作成方法、ワープロソフトとの連携、データベース機能の概要
- 9回 表計算ソフトの基本操作3 データベース機能（昇順と降順、複合条件での並べ替え）、グラフと表の印刷演習問題
- 10回 プレゼンテーションソフトの基本 PowerPointの機能と操作、写真・グラフの挿入、簡単なアニメーションの設定、スライドショー
- 11回 インターネットの活用とスライド作成 情報検索と活用（引用）の仕方 演習問題
- 12回 総合演習問題1 期末試験・検定試験を想定したワープロソフトと表計算ソフトを活用した文書作成問題
- 13回 総合演習問題2 期末試験・検定試験を想定したワープロソフトと表計算ソフトを活用した文書作成問題・知識問題
- 14回 期末試験 実技科目（70点）+筆記試験（30点）
- 15回 成績発表と検定模擬試験 個別の成績発表、検定試験を想定した模擬試験

【履修上の注意事項】

本授業はパソコンの活用能力を高める授業として位置づける。本授業は、受講以前に、何らかの形でWindowsの基本操作や文字入力の経験がある学生を対象とする。

【評価方法】

出席状況、演習問題や課題の提出状況、受講態度、期末試験等を総合的に判断し評価する。出席日数が全授業の3分の2に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

テキスト：全てオリジナルテキスト

【参考文献】

参考文献：必要に応じて配布

参考図書：サーティファイソフトウエア活用能力認定委員会編 Word文書処理技能認定試験2級問題集

人文情報基礎

担当教員 島村 岳

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

図書館概論

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、司書資格取得希望者にとってはその導入科目として、また一般学生には図書館を知的関心の対象として位置づける。従って、図書館とは何かという本質論及び、現代の図書館が直面している課題と職員の問題などを通して、図書館の歴史的役割、教育や文化との関わりなど、広い視野から図書館という組織が持つ社会的意味を考察する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：図書館概論について
2	現代社会と図書館(1)：定義、情報社会・生涯学習社会
3	現代社会と図書館(2)：図書館ネットワーク、図書館職員
4	現代社会と図書館(3)：流通と出版、著作権
5	図書館の理念①：図書館の自由、図書館員の倫理綱領
6	図書館の理念②：公共図書館の任務と目標
7	図書館の法規と行政①：法的基盤
8	図書館の法規と行政②：国レベルの施策
9	図書館の法規と行政③：地方自治体の施策
10	地域社会と図書館
11	図書館の種類と機能①：公共図書館
12	図書館の種類と機能②：学校図書館
13	図書館の種類と機能③：大学・専門図書館
14	図書館の種類と機能④：国立図書館・外国の図書館
15	図書館の歴史的展開 16回 試験
16	

【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

期末試験及びミニレポートと出席回数で総合的に評価する。

【テキスト】

「改訂図書館概論」植松貞夫他著 樹村房 2008(新・図書館学シリーズ1)

【参考文献】

図書館サービス論

担当教員 呉屋 美奈子

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コース選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

利用者と直接関わる図書館サービスの意義、特質、方法について解説し、以下の5項目に関して各種サービスの特質を明らかにする。

- 1) 図書館サービスの意義と種類
- 2) 公共図書館におけるサービスの構造
- 3) 館種別図書館サービスと図書館協力
- 4) 利用対象別サービス
- 5) 図書館サービスと著作権

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	図書館サービスの意義・理念・原則
2	図書館サービスの 要素・諸相
3	図書館サービスの種類と方法 の類型と概要
4	図書館サービスの種類と方法 貸出し・閲覧
5	図書館サービスの種類と方法 情報サービス, 集会・行事活動
6	公共図書館におけるサービスの構造 図書館間協力 ネットワーク
7	公共図書館におけるサービスの構造 公共図書館サービスを支える構造
8	公共図書館におけるサービスの構造 図書館政策・図書館行政
9	館種別図書館サービスと図書館協力 1) 図書館の種類とサービスの特徴
10	館種別図書館サービスと図書館協力 2) 図書館の種類とサービスの特徴
11	館種別図書館サービスと図書館協力 類縁機関
12	利用対象別サービス 1)
13	利用対象別サービス 2)
14	図書館サービスと著作権
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。
人数が多かった場合は、4年次を優先いたします。

【評価方法】

期末試験、またはレポートと出席日数で総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト：『図書館サービス論 改訂』高橋正也編 樹村房 2008 (新図書館学シリーズ)

【参考文献】

『図書館学基礎資料』第7版 今まど子編 樹村房 2008

図書館資料論

担当教員 國吉 綾子

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

図書館資料全般の歴史・特質を論じ、その出版と流通のあり方、資料収集の理念・方法、選択ツールの種類、管理・保存方法について具体的に解説する。また、今日の図書館では図書資料以外にも、さまざまな視聴覚資料や電子資料が収集・提供されているため、これらの新しいメディアの特質や利用等にも言及する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	図書館資料の種類
2	資料の種類と特性（1）：図書・逐次刊行物
3	資料の種類と特性（2）：ファイル資料・マイクロ資料
4	資料の種類と特性（3）：視聴覚資料・電子資料・視覚障害者用資料
5	資料の種類と特性（4）：政府刊行物・地域資料
6	資料の収集（1）：コレクションの構築：定義・原理
7	資料の収集（2）：収集方針
8	資料の収集（3）：資料選択と情報源
9	資料の管理・保存
10	コレクションの評価
11	資料収集・提供と図書館の自由（1）
12	資料収集・提供と図書館の自由（2）
13	資料収集と出版流通
14	分担収集・分担保存
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

期末試験、およびレポートと出席日数で総合的に評価する。

【テキスト】

『改訂図書館資料論』平野英俊 [ほか] 著 樹村房 2004（新・図書館学シリーズ；7）

【参考文献】

『図書館学基礎資料』今まど子編 樹村房 2009

日本語現代文法 I

担当教員 西岡 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。前期は敬語と文法に着目します。日本語検定3級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

【授業の展開計画】

1. 敬語 尊敬語 謙譲語 I 謙譲語 II 丁寧語 美化語
2. 文法 語の文法 文の文法 語句の誤用と文のねじれ

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
宿題は必ずやってくることを。

【評価方法】

平常点（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）
適宜、プリントを配ります。

【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

日本語現代文法 I

担当教員 野原 優一

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろ決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。しかし、言語事項をどう捉えるかによって文法理論も異なったものになる。とりわけ、現代語の文法学説には異説が多く用語も一様ではない。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深める。前期（I）では、学校文法を基に品詞論や構文論を通して現代語を考察する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス、ことばと文法
- 2 文の成分（1）
- 3 文の成分（2）
- 4 品詞
- 5 名詞・代名詞
- 6 動詞（1）
- 7 動詞（2）
- 8 形容詞
- 9 形容動詞
- 10 連体詞・副詞
- 11 接続詞・感動詞
- 12 文の組み立て（1）
- 13 文の組み立て（2）
- 14 プレゼンテーション
- 15 試験

【履修上の注意事項】

意欲的な授業参加を求める。

【評価方法】

期末試験・豆テスト・提出物・出席日数などで総合的に評価する。

【テキスト】

授業内容に即したプリントをあらかじめ配布する。

【参考文献】

渡辺正数著『教師のための口語文法』右文書院 / 北原保雄『日本語の世界6 日本語の文法』中央公論社

日本語現代文法Ⅱ

担当教員 西岡 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

日本語の総合的な運用能力を高めます。後期は、語彙、言葉の意味、表記、漢字を扱います。日本語検定3級さらには2級の合格を目指し、実際に練習問題を解いていきます。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|----------|---------|----------------|---------------|
| 1. 語彙 | 語と語の関係 | 結び付きにおける語の性格 | 語種と文体 |
| 2. 言葉の意味 | 似た言葉の区別 | 言葉の多義性 | ことわざ・慣用句・故事成語 |
| 3. 表記 | 現代仮名遣い | 送り仮名 | |
| 4. 漢字 | 異字同訓 | 字形が似ている漢字の使い分け | |

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
宿題は必ずやってくることを。

【評価方法】

平常点（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

日本語検定公式テキスト「日本語」中級 3・4級受検用（東京書籍）
適宜、プリントを配ります。

【参考文献】

庵功雄・日高水穂・前田直子・山田敏弘・大和シゲミ2003『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）。
佐々木瑞枝1994『外国語としての日本語』（講談社現代新書）。

日本語現代文法Ⅱ

担当教員 野原 優一

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私たちは、物事を伝えたり、気持ちや考えを表したりするためにことばを使う。ことばにはいろいろな決まりがあるわけだが、その続け方（言語表現の組み立て方）の決まりを文法という。しかし、言語事項をどう捉えるかによって文法理論も異なったものになる。とりわけ、現代語の文法学説には異説が多く用語も一様ではない。本講義は、ことばを文法的に考えることを通して日本語について考察を深める。後期（Ⅱ）では、学校文法に加え、新しい文法論についても触れる。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス 日本語の乱れ
2. 用言
3. 助動詞（1）
4. 助動詞（2）
5. 助詞（1）
6. 助詞（2）
7. 「は」と「が」
8. 敬語法（1）
9. 敬語法（2）
10. うなぎ文
11. テンス
12. アスペクト
13. 語順（ボイス・ムード）
14. プレゼンテーション
15. 試験

【履修上の注意事項】

前期・後期続けて履修するのが望ましい。

【評価方法】

期末試験またはレポート・豆テスト・提出物・出席日数などで総合的に評価する。

【テキスト】

授業内容に即したプリントをあらかじめ配布する。

【参考文献】

寺村秀夫他編『ケーススタディ日本文法』桜楓社 / 渡辺正数著『教師のための口語文法』右文書院

日本語古典文法 I

担当教員 西岡 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

高校までの国語古典文法（古文および漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読む基礎を身に付けます。古典文法・古語と琉球語諸方言との関わりについてもふれます。沖縄に関係のある題材を選んで、実際にそのテキストを読んでいきます。

【授業の展開計画】

古文編

1. 文語文法とは何か
2. ことばの単位
3. 動詞
4. 形容詞
5. 形容動詞

漢文編

1. 送り仮名・返り点
2. 書き下し文
3. 漢文の構造
4. 再読文字・返読文字
5. 置き字・助字

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

適宜、練習用のプリントを配布します。必ず古語辞典および漢和辞典を持参のこと（電子辞書可）。

【評価方法】

平常点および期末試験

【テキスト】

『新修版 対訳古典文法』（第一学習社） 『三訂新版 これでわかる 基本漢文マスター』（文英堂）
古語辞典および漢和辞典（いずれの出版社のものでも可）

【参考文献】

適宜指示する。

日本語古典文法Ⅱ

担当教員 西岡 敏

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

高校までの国語古典文法（古文および漢文の文法）を復習し、古典文学作品を読む基礎を身に付けます。古典文法・古語と琉球語諸方言との関わりについてもふれます。沖縄に関係のある題材を選んで、実際にそのテキストを読んでいきます。

【授業の展開計画】

古文編

1. 助動詞
2. 助詞
3. 名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞
4. 敬語表現法
5. 文と文章

漢文編

1. 句法の整理
2. 漢詩
3. 漢文重要語

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

適宜、練習用のプリントを配布します。必ず古語辞典および漢和辞典を持参のこと（電子辞書可）。

【評価方法】

平常点および期末試験

【テキスト】

『新修版 対訳古典文法』（第一学習社） 『三訂新版 これのでわかる 基本漢文マスター』（文英堂）
古語辞典および漢和辞典（いずれの出版社のものでも可）

【参考文献】

適宜指示する。

日本語表現法演習 I

担当教員 佐渡山 美智子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本語表現法演習Ⅱ

担当教員 佐渡山 美智子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

日本文化論

担当教員 葛綿 正一

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、日本文化について概観するものである。まず絵巻と古典文学について考え、次に演劇と古典文化について考え、最後に映画と現代文化について考える。日本文化の多様性や広がりを知ってほしい。ビデオ資料を活用する予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化論の陥穽
2	絵巻と日本文化（1）
3	絵巻と日本文化（2）
4	絵巻と日本文化（3）
5	絵巻と日本文化（4）
6	演劇と日本文化（1）
7	演劇と日本文化（2）
8	演劇と日本文化（3）
9	演劇と日本文化（4）
10	映画と日本文化（1）
11	映画と日本文化（2）
12	映画と日本文化（3）
13	映画と日本文化（4）
14	まとめ（1）
15	まとめ（2）
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

三回のレポートによって成績を評価する。

【テキスト】

開講時に指示する

【参考文献】

そのつど指示する

日本文学史 I

担当教員 葛綿 正一

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義は日本文学史を学ぶものである。特に古典文学を中心に、個々の作品を読み進めながら、それぞれの文学史的位置づけについて考えてみたい。レポートの書き方についても触れる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	時代区分について
2	万葉集について、一
3	万葉集について、二
4	万葉集について、三
5	古事記について、一
6	古事記について、二
7	風土記について
8	レポートの書き方
9	古今集について
10	物語文学について
11	日記文学について
12	随筆文学について
13	歴史物語について
14	説話文学について
15	まとめ
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポートとテストによって成績を評価する。

【テキスト】

『日本古典読本』筑摩書房

【参考文献】

そのつど指示する

日本文学史Ⅱ

担当教員 大野 隆之

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

日本の近代現代文学はすでに百年以上の歴史をもっている。その内どこまでを近代とし、どこからを現代とするかは諸説あるが、日本文学史近代現代Ⅱでは自然主義成立以後、即ち大正市民文学以降の文学の流れを概観する。具体的には次の通りである。

- 1、明治期啓蒙思想、戯作の残像と変容
- 2、写実主義と浪漫主義、没理想論争
- 3、ロマン主義から自然主義へ、日本近代文学の確立
- 4、大正文学・白樺派、私小説と芥川
- 5、関東大震災の衝撃
- 6、モダニズムとプロレタリア文学の登場
- 7、転向文学と国策文学
- 8、戦後文学
- 9、現代文学文学

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

テキストは初回の講義で指示する。

【参考文献】

柄谷行人『日本近代文学の起源』講談社1980年
亀井秀雄『感性の変革』講談社1983年

マルチメディア論

担当教員 島村 岳

配当年次 1年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

ホームページをはじめとするマルチメディアを、単に技術ではなくひとつのメディアとしてとらえ、そのメディアの利用法を学ぶ。マルチメディア全般の概念・用語、ビデオ動画をのぞくマルチメディア関係のデータ処理（音声データ処理、画像処理）、Gifアニメ、FLASHなどを含むHTMLの学習。学生各自が各マルチメディア素材を生かしたホームページを作成できるような知識、技術を身につける。最終的には、全体で10ページ前後、使用画像数40点前後、重さ3メガ程度のホームページを生徒自身で作成させる。

【授業の展開計画】

- 1週目（マルチメディア概論） マルチメディア全般用語説明、技術、用語の基礎知識
 2週目（画像処理1） 画像圧縮と変換・画像加工： PHOTOSHOP全般用語説明、技術、用語の基礎知識 ～PHOTOSHOP編/1
 3週目（画像処理2） 画像圧縮と変換・画像加工： 教材画像の切り抜き、色調補正、合成 ～PHOTOSHOP編/2
 4週目（画像処理3） 画像圧縮と変換・画像加工： 持ち込み画像のスキャン、色調補正、合成、加工された教材画像の評価、発表 ～PHOTOSHOP編/3
 5週目（画像処理4） 画像圧縮と変換・画像加工： 加工された持ち込み画像、完成
 持ち込み画像、ホームページ(html)への張り込み ～PHOTOSHOP編/4
 6週目（画像処理5） イラスト・アニメの作成： Illustrator全般用語説明、技術、用語の基礎知識 ～Illustrator編/1
 7週目（画像処理6） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 1（パスツールで小鳥を囲い込む） ～Illustrator編/2
 8週目（画像処理7） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 2（色の設定、文字の書き込み） ～Illustrator編/3
 9週目（画像処理8） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 3（ファイルの書き出し・htmlへの貼り込み） ～Illustrator編/4
 10週目（画像処理9） イラスト・アニメの作成： 教材用epsファイルを使い小鳥の絵を描く 4（貼り込まれた小鳥の評価、発表） ～Illustrator編/4
 11週目（動画処理1） フラッシュアニメの基礎知識、パラパラアニメ、トゥーンアニメ、～Flash編/1
 12週目（動画処理2） フラッシュアニメの基礎知識、ホームページへの貼り込み ～Flash編/2
 （音声処理） 音声ファイル形式・音声取込と加工
 13週目（HTML） HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/1
 14週目（HTML） HTMLの基礎と応用、各マルチメディア素材の活用/2
 15週目（プレゼンテーション） 各自が作成したホームページを発表

【履修上の注意事項】

- 1) インターネットは見ているが作ったことがない、生徒の受講を希望。技術の取得ではなく、理念を学習する。
- 2) かなりテンポの早い、内容の濃い講義です。2回連続して欠席した場合、確実についてゆけなくなります。

【評価方法】

5点の提出物・発表(①制作ホームページのテーマ、②ホームページ構成図、③写真画像(ビットマップ系画像)、④ポストスクリプト系画像、⑤作成したホームページ、⑥ジャックポット特別評価)より成績の評価をします。

【テキスト】

ホームページ(<http://www.mco.ne.jp/~okirodo/2006media/index.html>)をテキストとします。

【参考文献】

琉球文化論

担当教員 照屋 理

配当年次 1年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球文化論とは文字通り、琉球の文化を論じる講義のことです。ところで「琉球」とはどこにあるのでしょうか。「沖縄」と何が違うのでしょうか。また「文化」もよく聞かれる言葉ですが、一体どのようなものなのでしょうか。この講義は、主に琉球・沖縄文学をテーマとしながら、見、聞き、触れ、嗅ぐことなどを通して「琉球文化」を受講生自身で考え、各自の足下を掘り下げていくことをねらいとしています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション。講義内容、評価方法の紹介等
2	琉球・沖縄文学概説
3	身近な方言について
4	南島祭祀歌謡の概説
5	『おもろさうし』概説
6	オモロ鑑賞
7	奄美地域の歌謡概説と作品鑑賞
8	宮古地域の歌謡概説と作品鑑賞
9	八重山地域の歌謡概説と作品鑑賞
10	琉歌概説（琉歌を詠む）
11	琉歌作品鑑賞
12	琉球・沖縄劇文学の概説と作品鑑賞
13	琉球・沖縄説話文学の概説と作品鑑賞
14	「琉球」「文化」を論じるということについて・総括
15	期末試験 基礎問題(3～4問)70点＋応用問題(2問)30点
16	

【履修上の注意事項】

本講義は「琉球」や「沖縄」、あるいは「文化」について自分の力で考え、かつそれを提示することが求められる。講義で何を感じ、どう考えたかを確認する為、講義の最後に毎回小レポートを書き、提出してもらう。小レポートは成績評価の対象とする。

【評価方法】

成績は出席状況、課題や小レポートの提出状況、受講態度、期末試験等を総合的に判断し評価する。出席日数が全講義の3分の2に満たない場合は単位を与えない。また、課題レポート等において、引用の提示がない、あるいは主要部分がコピー＆ペーストされた内容である場合は単位を与えない。

【テキスト】

『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版 2008 増補・改訂版）

【参考文献】

必要に応じて配布する。

漢文学 I

担当教員 運天 亜紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

漢文を読むためには本来の「漢字」が持つ意味や文章の構造を把握し、日本語の古文法に従って和訳・解釈する知識が必要である。この講義では漢文を読むための方法、調べ方を学び、漢文（白文）を読む訓練を繰り返しながら漢文訓読に慣れ親しむことに重点をおく。また、単に文法事項の確認にとどまらず、漢文講読を通して古代中国の文化、思想、歴史等を理解し、文章の美しさ、深さを味わう機会としたい。

【授業の展開計画】

漢文学 I では中学、高校で学んだ漢文訓読法及び語文法を復習し、辞典や字典を引きながら、「白文」を訓読し、解釈する練習を繰り返し行う。教材には思想、歴史、伝記、説話等の様々なジャンルから短文を選定し、グループに分かれて持ち回りで内容についての発表を担当してもらう。その際担当者には「語釈」「試訳」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	漢文訓読法基礎
3	訓点、書き下し文について
4	助字、再読文字について
5	漢文の構造について
6	同上
7	短文を読む
8	同上
9	発表
10	発表
11	発表
12	発表
13	発表
14	発表
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

受講に際しては『新字源』『漢語林』のような漢和辞典を用意すること。

【評価方法】

発表、レジュメの内容とテストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】

テキストは適宜プリントを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義中紹介する。

漢文学Ⅱ

担当教員 運天 亜紀子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

中国文学を代表するものとして「漢文、唐詩、宋詞、元曲」がしばしば挙げられるが、中でも“詩”は中国文学史上際立った特徴を持って発生し、発展し、継承された文学であり、中国文学の言わば王道と言えよう。漢文学Ⅰでは漢文を読む基礎を、漢文学Ⅱではさらに進めて詩を学習対象とし、漢詩の歴史やその構造、そして漢詩を読み解くための手順、方法を学び、多くの優れた作品を鑑賞することを目的とする。

【授業の展開計画】

前半では詩のジャンルから押韻、平仄等の構造に関することを一通り紹介し、後半では漢文学Ⅰ同様、辞書や字書を引きながら実際に詩を読む作業を繰り返し行う。教材には様々なジャンル、時代の詩をなるべく多く選定し、グループごとに持ち回りで内容についての発表をしてもらう。その際担当者には「語釈」「試訳」等をまとめたレジュメの提出が課せられる。

週	授 業 の 内 容
1	登録・ガイダンス
2	詩経について
3	楚辞について
4	樂府について
5	五言詩について
6	七言詩について
7	近体詩について
8	押韻と平仄について
9	詩を読む手順について
10	発表
11	発表
12	発表
13	発表
14	発表
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

受講に際しては『新字源』『漢語林』のような辞書を用意すること。

【評価方法】

発表、レジュメの内容とテストを中心に、授業態度や出席状況を含めて評価する。

【テキスト】

テキストは適宜プリントを配布する。

【参考文献】

参考文献は講義中紹介する。

現代文学理論 I

担当教員 大野 隆之

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

現代文学理論Ⅱ

担当教員 大野 隆之

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

現代文学理論のうち沖縄文学に適用可能なものを抽出し、実際の作品を読み解きながら、作品分析の方法を学ぶ。

【授業の展開計画】

- 1, ポリフォニー 大城立裕「カクテルパーティー」
- 2, マイナー文学論 東峰夫「オキナワの少年」
- 3, 実証主義 久志英佐子「滅び行く琉球女の手記」
- 4, 男性原理と女性原理 又善栄喜「豚の報い」
- 5, ポストコロニアル 沖縄近代詩歌
- 6, サブカルチャー批評 ウルトラセブンと沖縄

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

『沖縄文学選』

【参考文献】

口承文芸学 I

担当教員 一俣 晴一郎

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

沖縄の伝承話を中心に展開し、フィールドワークで実地研修する。

【授業の展開計画】

1. 口承文芸とは？講義概要の説明。
2. 沖縄の伝承話の分類。
3. 神話
4. 伝説 I
5. 伝説 II
6. 本格昔話 I
7. 本格昔話 II
8. 本格昔話 III
9. 本格昔話 IV
10. 動物昔話
11. 笑い話 I
12. 笑い話 II
13. 天体説話
14. フィールドワーク（14と15は同一日に実施）
15. フィールドワーク（14と15は同一日に実施）
16. まとめ。レポート提出

【履修上の注意事項】

前期共通科目の「沖縄の民話」を受講したものは登録を遠慮して欲しい。
フィールドワークを実施するので受講者を25人に制限する。

【評価方法】

出席状況（欠席5回は単位なし）欠席は減点有り。
レポート提出

【テキスト】

特になし。資料は講義ごとに配布する。

【参考文献】

データベース論

担当教員 芳山 紀子

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

【授業のねらい】

インターネットをはじめとするネットワーク環境の充実に伴い、データの活用能力はこれからの社会の中で、極めて重要な能力となってきた。

【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

本教科では、Microsoft Excelを活用し、表計算ソフトウェアの操作を通し、パソコンの基礎概念の形成を第一義として掲げるものとする。更に、社会の中で即戦力の人材と成りうるための「データ活用能力」を養うものとする。到達目標は、日本商工会議所の日商PC検定試験（データ活用）3級（旧「ビジネスコンピューティング検定試験3級」）合格レベルとする。また、本講義においては、学生の卒業後におけるビジネス社会で通用するパソコンスキルを総合的に高めることを目的とする。

- 1 ガイダンス、Excelの画面構成（名称と役割）およびデータの入力規則
- 2 異なる種類のデータ入力方法 表の体裁の変更 連続データ入力 演習問題
- 2 表計算機能1：さまざまな計算方法（演算記号の活用・関数の活用など） セルの相対参照
- 3 表計算機能2：小数点以下の桁数制御 表の体裁変更（罫線、背景色・文字色の変更）その他
- 4 表計算機能演習問題 グラフ機能1：求める結果とグラフの種類 グラフ構成要素と役割
- 5 グラフ機能2：棒・折れ線・円グラフの作成
- 6 グラフ機能3：複合グラフの作成 演習問題
- 7 グラフ機能4：異なるアプリケーションのリンク データベース機能1：データベース機能概略
- 8 データベース機能2：並べ替え・フォーム・オートフィルタ機能
- 9 データベース機能3：演習問題
- 10 表計算機能3：端数処理の関数 条件判断の関数 演習問題
- 11 表計算機能4：関数総合演習
- 12 パソコン理論講義（1）：一般知識・ハードウェアの概要・ソフトウェア
- 13 パソコン理論講義（2）：ネットワーク・情報セキュリティ
- 14 実力判定試験
- 15 実力判定試験の総括とまとめ

【履修上の注意事項】

本授業はパソコンの活用能力を高める授業として位置づける。

一年次の人文情報基礎で初歩的な知識・技術をすでに習得し、単位を取得した者を対象とする。（編入生のみ人文情報基礎との同時履修を許可する）

【評価方法】

出席状況、演習課題の提出状況、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。

出席回数が全授業数の2/3に満たない場合は単位を与えない。

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト

【参考文献】

必要に応じ配布

日本商工会議所編 PC検定試験公式テキスト

日本芸能史 I

担当教員 狩俣 恵一・島袋光晴・宮城茂雄

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講座は、伝統組踊保存会副会長の島袋光晴先生と同じく伝統組踊保存会伝承者の宮城茂雄先生、それに狩俣の3名で担当するが、実演家2人の先生を中心に演じ手の立場からの講義が中心となる。内容は、島袋光晴先生が琉球の古典舞踊及び組踊を中心にお話され、宮城茂雄先生が能楽と組踊の比較を中心にお話される。

【授業の展開計画】

以下の項目を中心に講義を行う

1. 琉球古典芸能の歴史と概要 (1) (2) (3)
2. 組踊「執心鐘入」のストーリーと演技 (1) (2) (3)
3. 組踊「二童敵討」のストーリーと演技 (1) (2) (3)
4. 組踊「銘刈子」のストーリーと演技 (1) (2) (3)
5. 能楽と組踊 (1) (2) (3)

【履修上の注意事項】

必要に応じてビデオ等の視聴覚教材を使う。講義中に配布された資料は、常に整理しておくこと。ノートも整理すること。

【評価方法】

出席点、ノート及び講義資料の持ち込みによる試験。

【テキスト】

テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

宜保榮治郎著『組踊入門』沖縄タイムス社 定価3,000円

日本芸能史Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一・島袋光晴・宮城茂雄

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講座は、伝統組踊保存会副会長の島袋光晴先生と同じく伝統組踊保存会伝承者の宮城茂雄先生、それに狩俣の3名で担当するが、実演家2人の先生を中心に演じ手の立場からの講義が中心となる。内容は、島袋光晴先生が琉球の古典舞踊及び組踊を中心にお話され、宮城茂雄先生が能楽と組踊の比較を中心にお話される。

【授業の展開計画】

以下の項目を中心に講義を行う

1. 琉球古典芸能と村踊り (1) (2) (3)
2. 組踊「孝行の巻」のストーリーと演技 (1) (2) (3)
3. 組踊「女物狂」のストーリーと演技 (1) (2) (3)
4. 琉球古典舞踊の演技 (1) (2) (3)
5. 本土と沖縄の古典芸能 (1) (2) (3)

【履修上の注意事項】

必要に応じてビデオ等の視聴覚教材を使う。講義中に配布された資料は、常に整理しておくこと。ノートも整理すること。

【評価方法】

出席点。ノート及び講義資料の持ち込みによる試験。

【テキスト】

テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

宜保榮治郎著『組踊入門』沖縄タイムス社 定価3,000円

日本語史 I

担当教員 高橋 俊三

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べていることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。そのようにして、帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	序論（講義目標・講義方法など）
2	概説1（日本語上代・中古語の特徴）
3	概説2（日本語中世・近世語の特徴）
4	概説3（近世語の特徴受講者のテーマの設定）
5	上代の文字（上代特殊仮名遣い）
6	上代の音韻（母音脱落など）
7	上代の文法1（動詞・形容詞活用の特徴）
8	上代の文法2（助動詞「り」、助詞「つ」など）
9	上代の語彙（和語と漢語など）
10	上代の語彙（母音脱落、母音調和の法則など）
11	中古の文字（仮名の発生）
12	中古の音韻（連声の発生）
13	中古の文法（活用の種類の変異）
14	中古の語彙（漢語の普及）
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

聞くのみでなく、討論に参加してほしい。発表やレポートなどの期日は厳守のこと。登録できるのは原則として「日本語学概論」を履修済みである者。

【評価方法】

研究発表、意見発表、期末レポート（授業記録）で成績評価をする。よって、追試・再試はない。

【テキスト】

土井忠夫・森田武著『新訂国語史要説』（修文社）

【参考文献】

阪倉篤他編 『講座国語史』 全6巻（大修館）
 亀井孝他編 『日本語の歴史』 全6巻（平凡社）

日本語史Ⅱ

担当教員 高橋 俊三

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語の音韻・語法・語彙等の各分野について、ある言語事実がどのように生じ、どのように発達したか、またどんな経路をとって衰え滅んだかを跡づける。初めに、日本語の変遷を大観し、重要なテーマを解説する。次に学生が、テキストあるいは研究書で述べてあることが正しいか、原資料にあたって検証し、その結果を発表し、みんなで討議する。帰納法、実証方法を取得するのが目標である。

【授業の展開計画】

日本語の音 日本語史Ⅱ（後期）

週	授 業 の 内 容
1	中世の文字（当て字など）
2	中世の音韻（長音の発生など）
3	中世の文法1（活用語の連体形と終止形の同一化）
4	中世の文法2（推量の助動詞「う・よう」の発生）
5	中世の文法3（丁寧語「候」の発生など）
6	中世の語彙（女房言葉の構造）
7	近世の文体（文体の分類とその特徴）
8	近世の音韻（四つ仮名の混同）
9	近世の文法1（代名詞など）
10	近世の文法2（已然形と仮定形の交替）
11	近世の文法3（形容詞・形容動詞の新しい活用）
12	近世の文法4（丁寧語「です」などの発生）
13	近代の文体（言文一致文）
14	近代の語彙（西洋からの外来語）
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

資料の収集・整理の方法、論理の展開の方法、結論の出し方、相手の主張の正否の判断法などを学んでほしい。登録できるのは原則として「日本語史Ⅰ」を履修済みである者。

【評価方法】

研究発表、意見発表、期末レポート（授業記録）で成績評価をする。よって、追試・再試はない。

【テキスト】

土井忠夫・森田武著『新訂国語史要説』（修文社）

【参考文献】

阪倉篤他編 『講座国語史』 全6巻（大修館）
 亀井孝他編 『日本語の歴史』 全6巻（平凡社）

日本語音声学 I

担当教員 仲間 恵子

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語・琉球語（琉球方言）との比較を行う。人は言語音声をどのように発声し、聞き取り、意味をもつ単位として使用しているのかを理解する。

【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する

週	授 業 の 内 容
1	講義内容のガイダンス
2	言語音声のラング的側面と非ラング的側面について
3	言語音声の非ラング的側面 1
4	言語音声の非ラング的側面 2
5	あらためて言語音声とは
6	言語音声のラング的側面 1（単語・文・イントネーション）
7	言語音声のラング的側面 2（単語・音節・音素）
8	テスト（第 1 回）
9	日本語標準語の母音音素と子音音素 1
10	日本語標準語の母音音素と子音音素 2
11	音素と音節
12	アクセントとイントネーション 1
13	アクセントとイントネーション 2
14	間（ポーズ）・プロミネンス
15	テスト（第 2 回）
16	

【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさしめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】

テスト 2 回（各 30%）とレポート 1 回（30%）。以上で評価の 90%とする。残り 10%を出席状況で判断する。

【テキスト】

「言語音声は何を伝えるか」上村幸雄 1964
する。

※テキストは教員で用意

【参考文献】

『日本語音声の研究 全 7 巻』杉藤美代子 和泉書院

日本語音声学Ⅱ

担当教員 仲間 恵子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

私たちの音声器官から発せられる声（言語音声）とは何かを現代日本語・標準語を中心に考え、必要に応じて諸言語との比較を行う。日本語音声学Ⅰでの講義内容をふまえ、日本語標準語の音声の考察を深める。また、音声学における国際音声字母（IPA）の理論と表記法について日本語音声を主な具体例として学ぶ。

【授業の展開計画】

進捗状況により内容は前後する。

週	授 業 の 内 容
1	現代日本語標準語の規範的な音声
2	母音1（みじか母音音素となが母音音素／連母音／二重母音）
3	母音2（標準語の母音音素とジョーンズの基本母音）
4	母音3（母音音素まとめ）
5	子音1（音節を開く子音音素／音節を閉じる子音音素）
6	子音2（直音と拗音と合拗音について）
7	子音3（子音音素の調音と音声表記）
8	子音4（つまる音（促音）とはねる音（撥音）の調音と音声表記）
9	テスト（第1回）
10	音節1（日本語のみじかい音節とながい音節）
11	音節2（単語と音節）
12	音節とアクセント
13	アクセント
14	アクセントとイントネーション
15	テスト（第2回）
16	

【履修上の注意事項】

講義は音声学に関する専門的な用語が多くありますが、常に用語がさししめす具体的な音声、または具体的なことがらを考えながら受講してください。時に一緒に発声することがあります。それができる学生の受講を希望します。

【評価方法】

テスト2回（各45%）。以上で評価の90%とする。残り10%を出席状況で判断する。

【テキスト】

「日本語 現代（音韻）」『言語学大辞典第4巻』上村幸雄

※テキストは教員で用意する。

【参考文献】

(1) 『ことばの科学入門』GLORIA J. BORDEN/KATHERINE S. HARRIS 廣瀬
肇訳 メディカルリサーチセンター (2) 『日本語音声の研究 全7巻』杉藤美代子 和泉書院

日本語学概論 I

担当教員 西岡 敏

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語の語彙について、練習問題を解きながら考えます。同義語、対義語、上位語と下位語などのような意味の側面、和語、漢語、外来語のような歴史的な由来の側面、複合語や派生などといった単語の作り方の側面などに、それぞれ焦点を当てて考察していきます。世界の中の日本語、日本語の歴史や琉球語諸方言との関連なども念頭に置いて話を進めていきます。

【授業の展開計画】

1. 序論
2. 意味
3. 単語の種類
4. 単語の系列
5. 単語のつかわれる広さ
6. 和語・外来語・漢語

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
ふだんから、日常会話、本、新聞、テレビ、ラジオなどの日本語表現に注意しておきましょう。
日本語を多角的な視点で捉えるよう心がけましょう。

【評価方法】

出席・課題（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

『語彙教育 その内容と方法』（むぎ書房）。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

金田一春彦1991『日本語の特質』（日本放送出版協会）
『日本語検定公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』（東京書籍）

日本語学概論 I

担当教員 狩俣 繁久

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語は、どんな特徴をもった言語なのでしょう。英語や中国語などとはどこがちがうのでしょうか。日本語の発音について、文法について、語彙や意味について、文字についてどれくらい知っていますか。国語教師になったとき生徒たちにどこまで説明できますか。あるいは留学生の疑問に十分に答えることができますか。日本語についての専門的な知識を得ることによってふだん何気なく使っているコトバの見方が変わります。そして、日本語を知ることは、日本語の達人への道の第一歩でもあります。身近な材料からいろいろと考えてみましょう。

【授業の展開計画】

前期の I では、語彙論・意味論を中心にしながら、文法論を少しだけ提示します。

1. ガイダンス。
2. 言語とはどういうものか。言語の機能。動物のコミュニケーションと人間言語の違い。
3. 日本語はどういう言語か。世界の言語の中での日本語の位置。日本語の特性。
4. 語彙的なものと文法的なもの。
5. 現実を認識し、関係を表現する手段としての単語と文。単語の分類としての品詞。
6. 単語の系列（類義語、反対語、同音語）。意味の構造。
7. 語彙の発展。和語、漢語、外来語。和語の特性、漢語の特性、外来語の特性。
8. 単語の生成。単純語、複合語。合成語、複合語、派生語。転生。
9. 使用のなかの単語。慣用句。
10. 単語の歴史。古典語から現代語への変化と発展と衰退と。
11. 単語の変種。幼児語。俗語。職業語。そして、方言。
12. 単語の形。言語の形式としての発音（音韻と音声）。
13. あなたの使っている日本語は、大丈夫ですか。ウチナーヤマトウグチ。
14. 期末試験。

【履修上の注意事項】

出席を重視します。講義のなかでは出席者に質問し、講義への参加をうながします。わからないことは恥ずかしいことはありません。しかし、わからないということに無自覚であってははいけません。わからないことを自覚するところから「知」ははじまります。毎日、日本語を使っているのですから、本当は日本語について多くのことを知っているはずで。それをちょっとだけ専門的に整理してみます。日本語についての知識を深め、言語を整理するための観点や方法まなぶと、日本語が面白くなってきます。

【評価方法】

出席が 30% で、中間試験、期末試験が 70% です。中間試験は切れのいいところで実施します。その日程は講義のなかで提示します。

【テキスト】

『語彙教育—その内容と方法—』教育科学研究会・言語教育研究サークル著。

【参考文献】

講義中に適宜紹介します。

日本語学概論Ⅱ

担当教員 西岡 敏

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語の語彙について、練習問題を解きながら考えます。同義語、対義語、上位語と下位語などのような意味の側面、和語、漢語、外来語のような歴史的な由来の側面、複合語や派生などといった単語の作り方の側面などに、それぞれ焦点を当てて考察していきます。世界の中の日本語、日本語の歴史や琉球語諸方言との関連なども念頭に置いて話を進めていきます。

【授業の展開計画】

1. 単語のつくり方
2. 慣用句
3. 語彙の歴史
4. 辞書
5. 語彙論とその教育

【履修上の注意事項】

出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

【評価方法】

出席・課題（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

『語彙教育 その内容と方法』（むぎ書房）。適宜レジュメを配布します。

【参考文献】

金田一春彦1991『日本語の特質』（日本放送出版協会）
『日本語検定公式領域別問題集 語彙・言葉の意味』（東京書籍）

日本語学概論Ⅱ

担当教員 狩俣 繁久

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語は、どんな特徴をもった言語なのでしょう。英語や中国語などとはどこがちがうのでしょうか。日本語の発音について、文法について、語彙や意味について、文字についてどれくらい知っていますか。国語教師になったとき生徒たちにどこまで説明できますか。あるいは留学生の疑問に十分に答えることができますか。日本語についての専門的な知識を得ることによってふだん何気なく使っているコトバの見方が変わります。そして、日本語を知ることは、日本語の達人への道の第一歩でもあります。身近な材料からいろいろと考えてみましょう。

【授業の展開計画】

後期のⅡでは、文字論を中心にしながら、音韻・音声についても提示します

1. ガイダンス。
2. 文字は、音声とどうちがうのか。そして、文字は、記号とどうちがうのか。
3. 日本語の文字。絵文字から単語文字へ、そして音節文字から単音文字へ。
4. 日本語の発音の歴史とかな文字の発達(1)－かな文字と発音。
5. 日本語の発音の歴史とかな文字の発達(2)－かな文字と発音。
6. 単純なものから複雑なものへ。基本的なものから派生的なものへ。
7. 外国語の表記は、何をもたらしたか。
8. 現代日本語の表記法としての漢字仮名混じり。
9. 日本語の漢字－完全単語文字・不完全単語。
10. 漢字の構造。漢字のつくり。部首（偏とつくり）
11. 漢字の発音。訓読みと音読み。呉音、漢音、唐音。
12. なぜ沖縄の地名、人名の漢字表記は難解なのか。
13. これからの漢字の研究と漢字教育。
14. 期末試験。

【履修上の注意事項】

出席を重視します。講義のなかでは出席者に質問し、講義への参加をうながします。わからないことは恥ずかしいことではありません。しかし、わからないということに無自覚であってははいけません。わからないことを自覚するところから「知」ははじまります。毎日、日本語を使っているのですから、本当は日本語について多くのことを知っているはずで。それをちょっとだけ専門的に整理してみます。日本語についての知識を深め、言語を整理するための観点や方法まなぶと、日本語が面白くなってきます。

【評価方法】

出席が30%で、中間試験、期末試験が70%です。中間試験は切れのいいところで実施します。その日程は講義のなかで提示します。

【テキスト】

『日本語の特質』金田一春彦

【参考文献】

講義中に適宜紹介します。

日本語教材研究演習

担当教員 大城 朋子

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

備考 日本語教員資格科目

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語教員として必要な「教材」に関する専門的な知識を得、実際に活用する力を養う。まず、日本語教育用教材を体系的に把握し比較分類を行う。その後、各種教材を用いて教材分析や教材作成を実際に行っていく。実践を通して、教育現場における教材を熟知し、効果的な活用法を習得していく。

【授業の展開計画】

「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コース・デザインと教材」「教材の比較分類表の作成」「教材の具体的使用法」「教科書と副教材の全体分析・課分析」「教材分析のまとめと発表」「視聴覚教材」「教育機器・教具用途別使い分け」「教材作成の実際」等が内容となる。

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習Ⅰ・Ⅱ」および「日本語現代文法Ⅰ・Ⅱ」を履修済みのこと。自主的・積極的に教室活動等に参加することが望ましいことは言うまでもない。

【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視。従って、授業への参加度、提出物、研究発表等が重視される。それに期末テストの評価が加わる。

【テキスト】

『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ（本冊）』スリーエーネットワーク

【参考文献】

『日本語教授法』石田敏子著、『日本語教育辞典』日本語教育学会編、初中上級用の各種日本語教育用教材（視聴覚教材も含む）他。

日本語教授法演習 I

担当教員 大城 朋子

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本語教員資格科目

【授業のねらい】

日本語教授法演習Iでは、外国語としての日本語教育が目指すものに触れた後、歴史的背景、第二言語習得理論等を概観していきます。その後、主要な教授法の基礎となっている学習理論、教師の役割、指導技術、そして手順等を比較し、長所・短所を実践的に見極めていきます。

【授業の展開計画】

具体的な内容は「日本語教育の目標」「母語の学習と外国語学習」「日本語教育の歴史」「各種教授法」「第二言語習得理論」「音声指導」「文字指導」「語彙指導」等となります。

【履修上の注意事項】

履修上の注意としては、「日本語表現法演習I&II」「日本語現代語文法I&II」「日本語教材研究演習」等を履修済みのこと。積極的に教室活動等に参加すること。

【評価方法】

総合的に評価しますが、特に平常点を重視されます。従って、授業への参加度、提出物、研究発表等が重視されます。それに期末テストの評価が加わります。

【テキスト】

『ベーシック日本語教育』佐々木泰子著（ひつじ書房）

【参考文献】

『日本語教育ハンドブック』日本語教育学会編、『実践日本語教授法』名柄迪著、
『日本語教育辞典』日本語教育学会編他

日本史概論 I

担当教員 深澤 秋人

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義では、7世紀から16世紀にいたる期間の日本社会の歴史を土地・租税制度のありかたにひきつけて考えます。時代区分では飛鳥時代から安土桃山時代に相当します。歴史とは過去のできごとであり、「日本史」として決定したものが存在するわけではありません。私たちは、小・中・高の教科で接した「日本史」を日本史と思いがちですが、それは歴史そのものではありません。この講義のねらいは、これまでの日本史像を見つめ直し、組み立て直すところにあります。日本史に向き合う視座を身に付けようとするのが到達目標です。

【授業の展開計画】

日本史の流れを連続的に把握するため、時代区分や歴史上の人物ではなく、土地・租税制度を軸にして日本社会の歴史を考えます。また、いわゆる大和（本土）の歴史に限定せずに、琉球史や北方史および海域アジア史を意識して日本史を考えます。

- 1) 時代区分や歴史上の人物のとらえ方、社会と国家との関係について解説します。
- 2) 令制国と五畿七道、都市としての奈良と京都の歴史について解説します。
- 3) 日本の歴史がいつ動いたのか、土地・租税制度に引き付けて考えます。
- 4) 藤原京から平安京にいたる都城の変遷を通して律令制国家の成立と変容を考えます。
- 5) 律令制国家の南北に広がる南島や北方世界との関係、その社会について考えます。
- 6) 土地制度の変化（班田制→負名制）から10・11世紀の日本社会を考えます。
- 7) 武士のルーツとともに、荘園公領制における武士と武家の関係を考えます。
- 8) 平氏政権の性格とともに、鎌倉幕府を運営した東国政権の成立時期を考えます。
- 9) 鎌倉時代の仏教を三つのグループに分類し、いわゆる鎌倉新仏教を再検討します。
- 10) 足利政権の特徴とともに、守護大名による領国支配の歴史的意味を考えます。
- 11) 戦国大名の領国の性格とともに、豊臣政権による兵農分離の歴史的意味を考えます。
- 12) 15世紀における日中貿易の変化、日明貿易以外の中国商品ルートについて考えます。
- 13) 後期倭寇と戦国大名の関係をを通して戦国時代を海域アジア世界のなかで再検討します。
- 14) 7世紀から16世紀
- 15) 期末試験

【履修上の注意事項】

この講義で問われるのは暗記力ではありません。好奇心と着眼点です。覚えるのではなく、疑問点を見つけて考えようとてください。漫然と出席しては自分で疑問点を見つけることはできません。一つでも多くの「発見」をすることを意識してください。

歴史が「苦手」なあなたも安心して教室に来てください。「日本史」から解き放たれる最後のチャンスかもしれませんよ。お待ちしております。

【評価方法】

基本的には期末試験の結果によって評価します。試験問題は記述問題（50点配点、15問×3点、1問×5点）と論述問題（50点配点）です。配布したレジュメや自分のノートなど何を見ても構いません。ほかにも、講義に参加する姿勢や意欲を重視します。場合によっては加点・減点することがあります。

【テキスト】

ありません。毎回、レジュメと図版などの参考資料を配布します。

【参考文献】

荒野泰典など編『アジアのなかの日本史』全6巻（東京大学出版会）、ほかにも、日本史の通史、古代史と中世史のシリーズものは2回目の講義で紹介します。各回の参考文献はレジュメで紹介します。

日本史概論Ⅱ

担当教員 深澤 秋人

配当年次 2年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義では、17世紀から19世紀後半にいたる期間の日本社会の歴史を考えます。日本史の時代区分では江戸時代と明治時代に相当します。私たちは19世紀後半以降に編みなおされた「日本史」の歴史叙述に多く接します。「日本史」は現在の日本の国のかたちである国民国家の形成や国民の創出と関連して成立しました。

この講義のねらいは、人文科学として日本史を考える意味を考えるところにあります。自明のものとしがちな「日本史」と改めて向き合う必要性に気づくことが到達目標です。

【授業の展開計画】

現在の日本の国のかたち（国民国家）の原型は19世紀後半に成立します。それ以前の政治体制である幕藩体制、国のかたちである幕藩制国家、「鎖国」状態の日本の国際交流を踏まえ、国民国家が形成されるうえでの課題、国民の創出と「日本史」の関係を私たちの問題として考えます。

- 1) 江戸時代（近世）の始まりと終わりを複数の指標から考えます。
- 2) 17世紀前半から19世紀中頃にいたる日本の国のかたち（幕藩制国家）を考えます。
- 3) 徳川政権のもと島津氏が琉球を侵攻した目的と結果、二次的な結果を考えます。
- 4) 徳川政権が「鎖国」状態のなかでどのように周辺諸国と関係したのかを考えます。
- 5) 対馬の領主である宗氏の歴史的な性格を中世と近世を通して考えます。
- 6) 琉球社会における日本文化の受容形態から18世紀後半の地方文化の状況を考えます。
- 7) 流通経済における江戸の性格とともに、「鎖国」と特産物の関係について考えます。
- 8) 松前藩の特産物である「蝦夷錦」が日本市場で消費されるまでの流通経路を考えます。
- 9) 徳川政権主導の政治体制である幕藩体制がいつ頃どのように崩壊したかを考えます。
- 10) 1860年代において雄藩、徳川政権、朝廷がどのように再編されたのかを考えます。
- 11) 近代国家の中央政府として明治政府がどのように成立したのかを考えます。
- 12) 明治政府による北海道と沖縄県の設置から1870年代の外交・領土問題を考えます。
- 13) 1870年代以降における国民の創出と「日本史」の成立との関係を考えます。
- 14) 17世紀から19世紀後半にいたる日本史の流れを振り返ります。
- 15) 期末試験

【履修上の注意事項】

この講義で問われるのは暗記力ではありません。好奇心と着眼点です。覚えるのではなく、疑問点を見つけて考えようとしてください。漫然と出席しては自分で疑問点を見つけることはできません。一つでも多くの「発見」をすることを意識してください。

歴史が「苦手」なあなたも安心して教室に来てください。「日本史」から解き放たれる最後のチャンスかもしれませんよ。お待ちしております。

【評価方法】

基本的には期末試験の結果によって評価します。試験問題は記述問題（50点配点、15問×3点、1問×5点）と論述問題（50点配点）です。配布したレジュメや自分のノートなど何を見ても構いません。ほかにも、講義に参加する姿勢や意欲を重視します。場合によっては加点・減点することがあります。

【テキスト】

ありません。毎回、レジュメと図版などの参考資料を配布します。

【参考文献】

荒野泰典など編『アジアのなかの日本史』全6巻（東京大学出版会）、ほかにも、日本史の通史、近世史と近代史のシリーズものは1回目の講義で紹介します。各回の参考文献はレジュメで紹介します。

日本文化基礎演習

担当教員 大野 隆之

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 前期・後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

樋口一葉「たけくらべ」をグループで輪読することにより、朗読力、明治期の語彙に関する調査、読解力、批評力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1, 教員による模擬発表、諸注意。
- 2, グループによる発表。

【履修上の注意事項】

グループ結成後の履修取り消しは認めない。

【評価方法】

発表内容が90%。特に朗読部分を最重視する。
期末テストを行う。これはグループ内における個人の力を確認するためのもので、評価の基本はグループの持ち点による。ただし不受験の場合は不可になるので注意。

【テキスト】

新潮文庫『にごりえ・たけくらべ』

【参考文献】

日本文学概論

担当教員 大野 隆之

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

世界文化の中の日本文学という視点を特に利解するために英文で書かれた日本文学論を講読する。

【授業の展開計画】

- 1, ドナルドキーンについて
- 2, 日本文学と中国文学
- 3, 日本特有の掛詞について
- 4, 暗示と象徴
- 5, 世界文学に対する日本文学の影響
- 6, 日本文学の構成力について

【履修上の注意事項】

毎回予習すること。

【評価方法】

発表もしくはレポートで受験資格を獲得し、期末テストで評価する。

【テキスト】

Donald Keene "Japanese Literature"
こちらで配布するので、購入は不要。

【参考文献】

日本文学講読Ⅰ

担当教員 萩野 敦子

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

日本の古典文学を代表する物語文学作品であると同時に、高校の国語教科書への採択率も高い『伊勢物語』を講読します。中学・高校の教員免許（国語）取得に関わる本科目は、高校生に古文を教えることが可能な古文の読解力を養成することをねらいとしています。したがって、各章段ごとに物語の内容を味わいながらも、常に古語や古典文法の知識の習得を意識しながら授業を進めていく予定です。それとともに作品からうかがえる平安時代の文化や生活、人々のものの考え方などにも触れ、古典文学を豊かに味わっていききたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	『伊勢物語』の概説1～日本古典文学史における位置～
3	『伊勢物語』の概説2～「在原業平」について・物語の概要について～
4	『伊勢物語』の講読1
5	『伊勢物語』の講読2
6	『伊勢物語』の講読3
7	『伊勢物語』の講読4
8	『伊勢物語』の講読5
9	『伊勢物語』の講読6
10	『伊勢物語』の講読7
11	『伊勢物語』の講読8
12	『伊勢物語』の講読9
13	『伊勢物語』の講読10
14	『伊勢物語』の講読11
15	前期のまとめ・試験
16	

【履修上の注意事項】

できるだけ後期の「Ⅱ」と継続して履修し、一年間で段階的に古文読解の力を身につけてもらいたいと思います。出席は必須です。ほぼ毎回レジメや資料を配付する予定ですので、きちんとファイルしてテキストとともに忘れずに持参してください。教員免許取得のために必要な科目でもあるので、真摯な姿勢で授業に臨み、知識を身に付けようという意欲を持ってください。なお、授業時には必ず古語辞典（電子辞書でも可）を持参してください。

【評価方法】

授業中のとりくみ（授業は基本的に受講者に問いかけながら進めていきます。その反応ぶりを重く見ます。「わからない」のは仕方ありませんが、明らかに授業を聞いていないから答えられない学生に対しては、相応の評価をします）・課題提出状況・期末試験（あるいはレポート）・出席状況等により総合的に評価します。

【テキスト】

角川ソフィア文庫『新版 伊勢物語』（角川書店）（予定）
古語辞典（いずれの出版社のものでも可）

【参考文献】

授業のなかで紹介します。

日本文学講読 I

担当教員 田場 裕規

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講は『源氏物語』桐壺巻の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。また本文（青表紙本の変体仮名）の読みに慣れることも目指す。

【授業の展開計画】

- | | | | |
|---|---------------|----|---------------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑥ |
| 2 | 『源氏物語』の概説① | 10 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑦ |
| 3 | 『源氏物語』の概説② | 11 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑧ |
| 4 | 『源氏物語』桐壺巻の講読① | 12 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑨ |
| 5 | 『源氏物語』桐壺巻の講読② | 13 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑩ |
| 6 | 『源氏物語』桐壺巻の講読③ | 14 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑪ |
| 7 | 『源氏物語』桐壺巻の講読④ | 15 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑫ |
| 8 | 『源氏物語』桐壺巻の講読⑤ | 16 | テスト |

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②講義のはじめに本文（変体仮名）の読みを行うので、事前に読みの練習等を行ってから講義に臨むこと。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④古語辞典を必ず持参すること。⑤追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得に必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。
*厳しい注意事項を列挙したが、読み味わう心と古典に学ぶ謙虚な姿勢を重視したい。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。桐壺巻に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

『古典セレクション 源氏物語1』（小学館）1,680円
『字典かな』（笠間影印叢刊行会【編】）780円

【参考文献】

小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫）1500円

日本文学講読Ⅱ

担当教員 萩野 敦子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

前期に引き続き、日本の古典文学を代表する物語文学であると同時に高校の国語教科書への採択率も高い『伊勢物語』を講読します。中学・高校の教員免許（国語）取得に関わる本科目は高校生に古文を教えることが可能な古文の読解力を養成することをねらいとしています。したがって、各章段ごとに物語の内容を味わいながらも、常に古語や古典文法の知識の習得を意識しながら授業を進めていく予定です。それとともに作品からうかがえる平安時代の文化や生活、人々のものの考え方などにも触れ、古典文学を豊かに味わっていきたいと思います。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	前期の総括（試験の講評など）・前期の復習
3	『伊勢物語』の講読1
4	『伊勢物語』の講読2
5	『伊勢物語』の講読3
6	『伊勢物語』の講読4
7	『伊勢物語』の講読5
8	『伊勢物語』の講読6
9	『伊勢物語』の講読7
10	『伊勢物語』の講読8
11	『伊勢物語』の講読9
12	『伊勢物語』の講読10
13	『伊勢物語』の講読11
14	『伊勢物語』の総括
15	後期のまとめ・試験
16	

【履修上の注意事項】

できるだけ前期の「Ⅰ」から継続して履修し、一年間で段階的に古文読解の力を身につけてもらいたいと思います。出席は必須です。また、ほぼ毎回レジメや資料を配付する予定ですので、きちんとファイルしてテキストとともに忘れずに持参してください。教員免許取得のために必要な科目でもあるので、真摯な姿勢で授業に臨み、知識を身に付けようという意欲を持ってください。なお、授業時には必ず古語辞典（電子辞書でも可）を持参してください。

【評価方法】

授業中のとりくみ（授業は基本的に受講者に問いかけながら進めていきます。その反応ぶりを重く見ます。「わからない」のは仕方ありませんが、明らかに授業を聞いていないから答えられない学生に対しては、相応の評価をします）・課題提出状況・期末試験（あるいはレポート）・出席状況等により総合的に評価します。

【テキスト】

角川ソフィア文庫『新版 伊勢物語』（角川書店）
古語辞典（いずれの出版社のものでも可）

【参考文献】

授業のなかで紹介します。

日本文学講読Ⅱ

担当教員 田場 裕規

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講は『宇治拾遺物語』の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。

【授業の展開計画】

- 1 ガイダンス
- 2 説話とは何か
- 3 『宇治拾遺物語』の類話について
- 4 『宇治拾遺物語』の講読①
- 5 『宇治拾遺物語』の講読②
- 6 『宇治拾遺物語』の講読③
- 7 『宇治拾遺物語』の講読④
- 8 『宇治拾遺物語』の講読⑤
- 9 『宇治拾遺物語』の講読⑥
- 10 『宇治拾遺物語』の講読⑦
- 11 『宇治拾遺物語』の講読⑧
- 12 『宇治拾遺物語』の講読⑨
- 13 『宇治拾遺物語』の講読⑩
- 14 『宇治拾遺物語』の講読⑪
- 15 『宇治拾遺物語』の講読⑫
- 16 テスト

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②毎時間、A4一枚の課題を提示するので、次時の授業開始時に提出すること。③指定した範囲の予習をした上で講義に臨むこと。④追試なるものは一切しない。但し、どうしても単位取得の必要な学生は、申し出ること。考慮しないことはない。

*厳しい注意事項を列挙したが、読み味わう心と古典に学ぶ謙虚な姿勢を重視したい。

【評価方法】

単純に（出席点＋テスト点＋レポート点）÷3＝成績評価とする。レポートのテーマは講義初回に提示する。『宇治拾遺物語』に関する複数のテーマから任意に選択し取り組んでもらう。尚、400字詰原稿用紙換算10枚以上とする。

【テキスト】

中島悦次校注『宇治拾遺物語』（角川ソフィア文庫）940円

【参考文献】

日本文学講読Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテキストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

(前期)

- 1 ジェンダー論入門
「勢力 (power)」概念で読む向田邦子の「花の名前」「かわうそ」
- 2 樋口一葉「にごりえ」／ジェンダーと周縁性
- 3 与謝野晶子「みだれ髪」／ジェンダーと身体性の言説
- 4 田山花袋「蒲団」／ジェンダーと囲い込み
- 5 森鷗外「半日」／ジェンダーと〈母〉
- 6 長塚節「土」／ジェンダーと階級

【履修上の注意事項】

期末レポート以外に、発表、課題を2～3回課します。

【評価方法】

①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

日本文学講読Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義では、主として近現代作家のテクストを取り上げながら、日本近代のジェンダー編成のありかたを考察します。

【授業の展開計画】

(導入) ジェンダー論入門Ⅱ

- 7 田村俊子「生血」／ジェンダーと〈性〉
- 8 平塚らいてう「茅ヶ崎へ、茅ヶ崎へ」／女性同性愛というセクシュアリティ
- 9 夏目漱石「こゝろ」／男性同性愛と異性愛体制およびジェンダー
- 10 菊池寛「父帰る」／ジェンダーと家父長制
- 11 有島武郎「或る女」／ジェンダーとセクシュアリティ
- 12 谷崎潤一郎「痴人の愛」／ジェンダーとメディア

【履修上の注意事項】

発表、提出物を課します。

【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題発表・提出物 ③出席

【テキスト】

『ジェンダーの日本近代文学』（黒澤亜里子他著、翰林書房）

【参考文献】

そのつど指示します。

比較文化 I

担当教員 上里 賢一

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

琉球（沖縄）の文化は、日本、中国、朝鮮、東南アジア諸国等の影響を受けて、独自の特色を持つものになってきたと言われている。この講義では、中国を中心にして形成された「漢字文化圏」の中における琉球の位地を文化的に解明していくことで、東アジアにおける琉球文化の一端を明らかにする。漢字文化の琉球への伝来、漢字による記録の発達と変遷、漢字による芸術の成立と展開等の視点から、琉球における漢字文化の諸相を見ていく。

【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

漢字文化の精華の一つであり、東アジア漢字文化圏の共有財産である漢詩を軸にして、琉球と中国、日本などの作品を比較し、その特色を明らかにすることで、琉球文化の内容に迫る。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	東アジア漢字文化圏と琉球①
3	東アジア漢字文化圏と琉球②
4	琉球漢詩の成立
5	程順則の作品①
6	程順則の作品②
7	程順則の作品③
8	程搏万の作品
9	蔡文溥の作品
10	蔡温の産業政策と漢詩文
11	蔡温の作品
12	蔡鐸の作品
13	曾益の作品
14	周新命の作品
15	試 験
16	

【履修上の注意事項】

漢和辞典を用意すること。

【評価方法】

出席、試験、その他の課題等を総合して判断する。

【テキスト】

特に指定しない。学期のはじめに使用する資料を配布する。

【参考文献】

一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書 1998 / 高島俊男『漢字と日本人』文春新書 平成13年 / 上里賢一『ピン江のほとり—琉球漢詩の原郷を行く』沖縄タイムス社2001 / 島尻勝太郎選・上里賢一注釈『琉球漢詩選』ひるぎ社 1990

比較文化Ⅱ

担当教員 上里 賢一

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

琉球（沖縄）の文化は、日本、中国、朝鮮、東南アジア諸国等の影響を受けて、独自の特色を持つものになってきたと言われている。この講義では、中国を中心にして形成された「漢字文化圏」の中における琉球の位地を文化的に解明していくことで、東アジアにおける琉球文化の一端を明らかにする。漢字文化の琉球への伝来、漢字による記録の発達と変遷、漢字による芸術の成立と展開等の視点から、琉球における漢字文化の諸相を見ていく。

【授業の展開計画】

【授業のねらい】の続き～

漢字文化の精華の一つであり、東アジア漢字文化圏の共有財産である漢詩を軸にして、琉球と中国、日本などの作品を比較し、その特色を明らかにすることで、琉球文化の内容に迫る。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション
2	東アジア漢字文化圏と琉球
3	首里と琉球漢詩
4	東国興の作品①
5	東国興の作品②
6	毛世輝の作品①
7	毛世輝の作品②
8	楊文鳳の作品①
9	楊文鳳の作品②
10	楊徳仁の作品①
11	楊徳仁の作品
12	真境名安興味の作品
13	喜舎場朝賢の作品
14	毛有慶の作品
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

漢和辞典を用意すること。

【評価方法】

出席、試験、その他の課題等を総合して判断する。

【テキスト】

特に指定しない。学期のはじめに使用する資料を配布する。

【参考文献】

一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書 1998/村上哲見『唐詩』講談社学術文庫 1998/上里賢一『ピン江のほとり—琉球漢詩の原郷に行く』沖縄タイムス社2001 /島尻勝太郎選・上里賢一注釈『琉球漢詩選』ひるぎ社 1990

文化情報学概論

担当教員 山口 真也

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本授業は、2年次より本格的に開始される「人文情報コース」関係科目の基礎科目として位置づけ、2つのサブコース(文化情報学、図書館情報学)の内容を理解することを目的とします。具体的には、沖縄の民話を素材とする朗読CDを作成する作業を通じて、図書館やインターネットといった情報装置を使って文化情報を発信するための基礎的な知識と技術、マナーを習得することを目指します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報学とは何か?・文化情報を蓄積、発信する意義・人文情報コースの説明
2	情報発信のルール① 著作権(1)
3	情報発信のルール② 著作権(2)
4	情報発信のルール③ 個人情報保護
5	情報発信のマナー① 子ども向けの作品と自主規制の関係(表現の自由、差別表現・不謹慎表現)
6	情報発信のマナー② 子ども向けの作品と自主規制の関係(暴力表現・犯罪助長表現)
7	朗読CDの制作① 作品選定・台本作成
8	朗読CDの制作② 台本作成、提出
9	朗読CDの制作③ 音声情報処理・入門編
10	朗読CDの制作④ 音声情報処理・応用編
11	朗読CDの制作⑤ 音声入力(スタジオ録音)
12	朗読CDの制作⑥ 音声入力(スタジオ録音)
13	朗読CDの制作⑦ 音声入力(スタジオ録音)
14	朗読CDの制作⑧ 音声情報処理・実習編
15	文化情報の発信 朗読CDの複製・図書館等への配布・インターネットでの公開
16	

【履修上の注意事項】

人文情報コース選択希望者は必ず2年次にて履修してください。

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況、レポートの点数を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。

【テキスト】

- 1) 毎週、プリントを配布します。テキストは使用しません。
- 2) データを保存するメディアとして、USBフラッシュメモリ(1GB以上)を各自で準備してください。

【参考文献】

文化情報学基礎演習

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

【授業のねらい】

3年次からの「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生のための基礎ゼミと位置づける。したがって国レベルの図書館変化の方向性を把握した上で、図書館における「課題・問題点のとらえ方・考え方」の基礎を学ぶ。また最新の図書館情報学の学問的成果や、実際の図書館の諸相を広く取り上げ、分析方法の基礎を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：科目内容について
2	生涯学習社会・情報社会の図書館の基礎知識①
3	生涯学習社会・情報社会の図書館の基礎知識②
4	生涯学習社会・情報社会の図書館像①：レポートA(課題)提示
5	レポートA：発表：疑問点報告・検討①
6	レポートA：発表：検討・まとめ②
7	生涯学習社会・情報社会の図書館像②：レポートB(課題)提示
8	レポートB：発表・疑問点報告・検討①
9	レポートB：発表・検討・まとめ②
10	現代図書館の実像：レポートC(課題)提示
11	レポートC：発表：現状及び課題の報告・検討①
12	レポートC：発表：現状及び課題の検討・まとめ②
13	これからの図書館像
14	これからの図書館職員
15	現代図書館の課題・対応策のまとめ 16回 試験
16	

【履修上の注意事項】

2年次前期までに、司書資格の基礎的科目である「図書館概論」「図書館サービス論」「図書館資料論」を履修しておくことが望ましい。

3年次から「図書館情報学ゼミ」を専攻しようとする学生は履修すること。

【評価方法】

レポート・出席状況及び授業への参加姿勢で総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

【参考文献】

文化情報学基礎演習

担当教員 山口 真也

配当年次 2年

単位区分 必

関連資格

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

備考 琉球文化・日本文化コースは選択必修科目

【授業のねらい】

人文情報コースの基礎科目である「文化情報学概論」では、沖縄の民話を子どもたちに伝えるための方法として、各地に伝わる民話を子ども向けにアレンジして脚本を作り、演出を考え、効果音をつけた朗読CDを作成しました。「文化情報学基礎演習」では、この音声データを使って、デジタル紙芝居と手製の絵本を制作し、県内の小学校、公共図書館へ配付(または上映)することで、人文情報コースでの文化情報の蓄積と発信に関する研究についての理解をさらに深めることを目的とします。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化情報を発信する意義・紙芝居CD-ROM・手作り絵本制作の計画
2	アニメーションの制作①：Flashの基本操作(図形の描画、レイヤー、モーショントウイーンの設定)
3	アニメーションの制作②：Flashの基本操作(モーションガイドの設定、背景の透過)
4	アニメーションの制作③：Flashの基本操作(アニメーション効果、カラー変更、パブリッシュ)
5	アニメーションの制作④：Flashの基本操作(音声の追加、シェイプトウイーンの設定)
6	アニメーションの制作⑤：Flashの基本操作(アクションスクリプトによるファイルの連結)
7	アニメーションの制作⑥：イラストの作成・PCへの取り込み
8	手作り絵本の制作① DTP、ページの入替え・本の仕組み・糸かがり綴じの方法
9	手作り絵本の制作② 表紙布の裏打ち(1)
10	手作り絵本の制作③ 表紙布の裏打ち(2)
11	手作り絵本の制作④ パソコンを使った絵本作成方法
12	手作り絵本の制作⑤ 絵本の印刷(1)
13	手作り絵本の制作⑥ 絵本の印刷(2)
14	手作り絵本の制作⑦ 表紙ボールばり・表紙と折丁の接着・絵本の完成
15	デジタル紙芝居・絵本の配布 公共図書館・学校図書館への挨拶状の作成・発送作業
16	

【履修上の注意事項】

- 1) 前期に開講される「文化情報学概論」を履修した者が受講できます。
- 2) 3年次より、人文情報コースを選択し、文化情報ソフトウェア、データベース制作を行う者は必ず受講するようにして下さい。
- 3) パソコンの基本操作ができることを前提とする授業のため、「人文情報基礎」「データベース論」「マルチメディア論」(同時受講可)を履修していることが望ましい。

【評価方法】

- 1) 出席回数と課題提出状況によって総合的に評価します。
- 2) 全15回の授業の内、2/3以上欠席した者、または課題未提出者には単位を与えません。

【テキスト】

- 1) プリントを配布します。
- 2) 500MB以上保存できるUSBフラッシュメディアを各自で準備すること。

【参考文献】

文化情報処理論

担当教員 芳山 紀子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。1年次の人文情報基礎において、体系的に学習を受けた者および、同等の知識・技術を持っている者を対象とし、Excel・Wordの応用操作を通し、身の回りに存在するデータを効率よく活用する技術を習得する。日本商工会議所の「日商PC検定試験（文書作成）2級」（旧日商日本語文書処理技能2級）レベルの習得の第一段階とする。

【授業の展開計画】

本授業をとおり、パソコンの操作技術は勿論のこと、今後実社会で必要とされるネットワークやハードウェアなど、パソコンの基礎知識及び漢字力・読解力・企画力・数学力など、総合力を育成し卒業後の即戦力への足がかりとする。

- 1 ビジネス文書の基本構成と活用 基本的ビジネス文書の作成 頭語と結語 時候の挨拶など
- 2 文書の編集 移動・コピー・入れ替え ビジネス文書作成 ルビと記号入力 その他
- 3 図形描画の概念と活用 練習問題 テキストボックスの概念と活用（1）
- 4 図形描画で作品を作る（機関車トーマス）
- 5 図形描画練習問題1 演習問題 図形描画演習問題2 作成手順の説明
- 6 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-1 段落罫線 文字列を表に変換
- 7 罫線活用と図形活用の表の違いと特徴 罫線の学習1-2 段落罫線 表の編集
- 8 異なるアプリケーションの連携 データ作成 OLE機能の確認
- 9 日本語能力確認 慣用句・漢字の読み書き・敬語及び謙譲語その他
- 10 パソコン基礎概論講義1（一般知識 ハードウェア概要）
- 11 パソコン基礎概論講義2（ソフトウェア ネットワーク 情報セキュリティ）
- 12 実力養成演習問題1
- 13 実力養成演習問題2 1
- 14 実力判定試験
- 15 総括とまとめ

【履修上の注意事項】

各学生の情報技術、知識、希望を考慮し、クラス分けを行う。

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の三分の二に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（芳山紀子編集）

【参考文献】

パソコン用語辞典（日経BP社） 日商PC検定2級公式テキスト

文化テキスト論Ⅰ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考 人文情報コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。前期の文化テキスト論Ⅰでは、主としてジェンダー理論の基礎を学び、文化における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、ポスト・コロニアル等の視点から考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 ジェンダーとは何か／おおまかな見取り図を描く
- 2 先駆者たちがめざしたもの
- 3 「男」「女」とは何か／性別の起源
- 4 性差・ステレオタイプ・差別
- 5 性役割と「らしさ」の罫
- 6 「性」に潜む二つの意味
- 7 ジェンダーの平等とバックラッシュ

【履修上の注意事項】

レポート、提出物を4～5回課します。

【評価方法】

- ①試験 (orレポート) ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

加藤秀一『ジェンダー入門』（朝日新聞社）

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

文化テキスト論Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

文化テキスト論とは、多様な文化現象、表象を対象とし、それらが作られ、消費される構造や関係性を批判的に問題化する研究です。文化テキスト論Ⅱでは、実際の文学テキストや映像（映画、写真、ポスター、絵画 etc.）における表象、イメージを、ジェンダー、セクシュアリティ、クィア・スタディーズ、ポスト・コロニアル等の視点から分析、考察する予定です。

【授業の展開計画】

- 1 文化テキスト論入門 Ⅱ
- 2 クィア理論の射程
- 3 「エイリアン」の表象分析
- 4 男同士の絆／ホモソーシャルな欲望（E・K・セジウィック）
- 5 北野武「BROTHER」の表象分析
- 6 「強制異性愛社会」と「ミソジニー（女性嫌悪）」「ホモフォビア（同性愛嫌悪）」
- 7 夏目漱石「こころ」の表象分析
- 8 「下妻物語」「ウーマン・ラブ・ウーマン」他

【履修上の注意事項】

レポート・課題を4～5回課します。

【評価方法】

- ①試験（orレポート） ②課題・提出物 ③出席

【テキスト】

プリントを使用。

【参考文献】

参考図書・文献は、そのつど指示します。

琉球文化基礎演習

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

琉球文化の代表的なものとして、言語・芸能・音楽・信仰・建築・工芸等を挙げることができるが、本演習ではそれらの中から、琉球の言語と文学及び民俗に関するテーマを選んで発表してもらう。発表に先立っては、資料の収集だけに限らず、必要に応じて現地調査なども行うこと。発表においては、日本本土・中国・韓国などのアジア諸国との比較研究を行うと共に、独自の見解を出すことができるように努めること。但し、受講生が多いときは、講義形式を中心進める。

【授業の展開計画】

第1回 発表についての説明

1. 発表日時と発表内容の確定。
2. 調査研究及び発表資料の作成。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表においては、聞き手がわかりやすいように工夫すること。

第2回

講義：琉球文化とは何か。

琉球の範囲・琉球文化の特質について考える。

第3回～第15回

学生の発表及び質疑応答
発表のまとめを行う。

【履修上の注意事項】

発表者は無断欠席をしないこと。

【評価方法】

試験と出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、その都度指示する。

琉球文化基礎演習

担当教員 西岡 敏

配当年次 2年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択必修科目

【授業のねらい】

琉球方言に関するメディア（方言ニュース、しまうたのCD、沖縄芝居のビデオ・沖縄の民話など）を題材にして、沖縄の芸能や文学作品で用いられている言語の意味が理解でき、鑑賞できるようになることなどを目標とします。実際に自分たちで琉球方言のコンテンツを作ることも考えます。

【授業の展開計画】

琉球方言の表記
題材の選択
音声記号および音韻記号による詞章の記述
琉球方言の単語解説
琉球方言の文法解説
題材の文学的考察・鑑賞
琉球方言のコンテンツ作成

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。
授業で課題の提出を求めています。

【評価方法】

平常点、課題発表、課題提出、レポートなど。
場合によっては試験によって評価を行なうことがあります。

【テキスト】

西岡敏・仲原稯[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2007[2000]
『沖縄語の入門（CD付改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。

【参考文献】

国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。波照間永吉[監修]・沖縄県教育文化資料センター『新編 沖縄の文学』編集委員会[編] 2003『新編 沖縄の文学』（沖縄時事出版）。

琉球文学概論

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球文学とは、主として琉球方言による文学であるが、琉球の人々が生きた和文学と漢文学をも含んでいる。しかし、琉球文学には、小説・日記・随筆などの記載文芸は少なく、神話・伝説・昔話・歌謡・芸能等の口頭で伝承されたものが主流である。その主な理由はとして考えられることは、琉球文学が祭祀や祝宴などと密接に繋がって伝承されてきたことにある。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

本講義では、上記の琉球文学の特質を考慮して、琉球方言による神話・伝説・昔話・琉歌・オモロ・民俗歌謡・組踊・狂言等をジャンル（形態）別に整理・体系化したうえで、それぞれのジャンル（形態）について具体的に説明する。

【講義計画】

1. 琉球文学の分類
2. 詩歌形態……呪言・呪詞・生産叙事歌謡・物語歌謡・オモロ・琉歌
3. 小説形態……説話（神話・伝説・昔話・世間話）
4. 戯曲形態……民俗芸能・組踊・琉球歌劇

【履修上の注意事項】

講義中の退出は認めない。講義では、常にノートをしっかりとること。

【評価方法】

試験と出席。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配る。

【参考文献】

その都度指示する。

琉球文学講読Ⅰ

担当教員 仲原 伸子

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする1コマ1・2首ずつ採り上げ、重複、校異、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

1. 『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
2. 『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
3. 『おもろさうし』概説（諸本）
4. 王府おもろ
5. 神女おもろ
6. 船ゑとのおもろ(1)
7. 船ゑとのおもろ(2)
8. ゑさおもろ
9. 名人おもろ
10. こねりおもろ
11. 地方おもろ(1)
12. 地方おもろ(2)
13. 公事おもろ
14. 期末試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善・岩波文庫・2000年刊）

【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊）

その他、参考文献一覧を授業で配布する

琉球文学講読Ⅱ

担当教員 仲原 伸子

配当年次 2年

単位区分 選必

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

『おもろさうし』は首里王府によって編纂された沖縄最古の神歌集である。1531年に第1巻、1613年に第2巻、1623年に第3巻以降の全22巻が成立した（総数1554首）。

本講義では、実際にオモロに関する資料を活用しながら、資料の内容を理解しその扱い方を学ぶ。最終的に自分でオモロを調べることができることを目標とする。1コマ1・2首ずつ採り上げ、校異、重複、歌形、反復句、語意、語釈、解釈、先行研究などについて調べ読解していく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	『おもろさうし』概説（成立・内容・主題）
2	『おもろさうし』概説（周辺歌謡・文学史的な位置づけ）
3	『おもろさうし』概説（諸本）
4	王府おもろ
5	神女おもろ
6	神女おもろ
7	船ゑとのおもろ(1)
8	船ゑとのおもろ(2)
9	ゑさおもろ
10	名人おもろ
11	こねりおもろ
12	地方おもろ(1)
13	地方おもろ(2)
14	公事おもろ
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

【評価方法】

レポート点と出席状況・授業参加姿勢とを総合的に評価する。

【テキスト】

『おもろさうし』上・下（外間守善、岩波文庫、2000年）

【参考文献】

『南島の神歌 おもろさうし』（外間守善・中央公論社・1994年刊）

『古典を読む おもろさうし』（外間守善・岩波書店・1998年刊） その他、参考文献一覧を授業で配布する

琉球方言学概論

担当教員 西岡 敏

配当年次 2年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球語諸方言の一つである沖縄語首里方言について、できるだけやさしく楽しく学んでいきます。本講義では、CALL教室で学びながら、沖縄語（ウチナーグチ）が何とか聞けるようになることを目標とします。また、沖縄中南部方言に属する首里方言のみならず、沖縄北部方言、奄美方言、宮古方言、八重山方言、与那国方言などの諸方言についても、折にふれて解説します。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイドダンス・琉球語諸方言の区画
2	三母音化・口蓋化
3	形容詞・動詞
4	係り結び・疑問詞
5	声門閉鎖音（グロタルストップ）
6	丁寧語
7	テ形・過去形・継続形
8	順接文・逆接文・条件文
9	不規則動詞・シヨッタ形・助詞
10	親族名称
11	受身・使役
12	尊敬語
13	謙譲語
14	琉球語諸方言と琉球文学
15	試験
16	

【履修上の注意事項】

登録人数を制限することがあります。
出席日数が3分の2に満たない者は原則として単位を与えません。

【評価方法】

出席・提出課題（30%）＋期末試験（70%）

【テキスト】

西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力] 2006[2000]
『沖縄語の入門（CD付き改訂版） たのしいウチナーグチ』（白水社）。

【参考文献】

国立国語研究所[編] 1963『沖縄語辞典』（財務省印刷局[大蔵省印刷局]）。井上史雄・吉岡泰夫[監修] 2004
『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』（ゆまに書房）。

演習 I

担当教員 高橋 俊三

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

日本語研究の意義と、残されている課題などを話し合い、受講者全員で調査テーマを決定する。そのテーマによって、調査方法、調査資料を決定し、必要なら夏休みに実地調査を行なう。一人では無理かもしれないことを、共同で行なうことによって、克服しようとするものである。

【授業の展開計画】

- 1 週 日本語研究の意義と方法
- 2 週 日本語研究の歴史
- 3 週 日本語研究の歴史
- 4 週 昨年度のゼミ報告書の批評
- 5 週 本年度のテーマについての討議
- 6 週 本年度のテーマの決定
- 7 週 本年度のテーマに関する文献の調査
- 8 週 本年度のテーマに関する文献の読み合わせ
- 9 週 本年度のテーマに関する文献の読み合わせ
- 10 週 テーマに関する調査方法の討議
- 11 週 テーマに関する資料の収集
- 12 週 テーマに関する資料の収集
- 13 週 収集資料の検討
- 14 週 収集資料の検討
- 15 週 今後の研究方法についての討議

【履修上の注意事項】

学生が主体的に企画し、実行して行き、自主的に研究するようにするようにしてほしい。また、個人個人の長所を生かして、全体に関わって行くようにしてほしい。共同調査の長所と楽しさを体験してほしい。

登録上限数を上回った場合は、初回講義時に面談を行い決定する。

【評価方法】

演習への参加の積極性、発表、質疑応答を総合的に評価する。

【テキスト】

土井忠生・森田武著『国語史要説』（大修館）

【参考文献】

飯田春巳・中山緑朗編集『概説日本語学』（明治書院）。

演習 I

担当教員 葛綿 正一

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

登録予定人数は12名。中世近世文学論または映像文化論に関してテーマの明確な学生のみ受け入れる。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習 I

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習 I

担当教員 兼本 敏

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

大学の科目で「演習」は独特です。演習では、トピックに関して調べ、発表し、お互いに意見を交換し合います。発表したことを文字で表現してもらいます。その際、表現に関する規則を学習します。

キーワード：論文、先行研究、参考文献、引用

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. テキストの取扱について
3. テーマ選定
4. ※ 発表
5. ※ 意見交換
(以降 ※を継続)
6. 夏季休業における個別計画について

【履修上の注意事項】

無断欠席は減点。携帯電話は切る（減点）

【評価方法】

発表 50% 意見交換 50% 減点方式で評価する。

【テキスト】

特に指定しないが、論文を書くために必要な書籍を読んでおくこと。
その他に講義時間に適宜紹介します

【参考文献】

演習 I

担当教員 大野 隆之

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習 I

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	執筆スケジュールの組み方
3	テーマ設定・研究方法の確定
4	資料・情報の収集方法
5	論文の構成方法について
6	内容発表・質疑応答・討議について
7	テーマと方法論の発表／個別指導①
8	テーマと方法論の発表／個別指導②
9	テーマと方法論の発表／個別指導③
10	テーマと方法論の発表／個別指導④
11	進行状況報告・題点の発表／個別指導①
12	進行状況報告・題点の発表／個別指導②
13	進行状況報告・題点の発表／個別指導③
14	進行状況報告・題点の発表／個別指導④
15	進行状況報告・題点の発表／個別指導⑤ 16回 試験(まとめ)
16	

【履修上の注意事項】

各自が明確なテーマ設定、論文作成計画を立案すること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席日数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習 I

担当教員 山口 真也

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、講義、レジュメの作成、研究発表、討論を通じて、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学び、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(1):履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2):就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
3	個人研究テーマの決定(1):テーマ決定方法、先行研究の調査方法(図書編)
4	個人研究テーマの決定(2):先行研究の調査方法(雑誌編)
5	卒業論文報告(1):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
6	卒業論文報告(2):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
7	卒業論文報告(3):昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
8	個人研究テーマの決定(3):先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
9	個人研究テーマの決定(4):研究計画書の作成方法
10	卒業論文中間報告(1):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
11	卒業論文中間報告(2):4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
12	個人研究テーマ発表(1)
13	個人研究テーマ発表(2)
14	個人研究テーマ発表(3)
15	個人研究テーマ発表(4)
16	

【履修上の注意事項】

1)データベース、ソフト制作を行う学生は、「文化情報学概論論」「マルチメディア論」「データベース論」「文化情報学基礎演習(情報学クラス)」の単位をすでに取得していることが望ましい。また、「地域データベース論」「地域データベース演習」を受講することを履修の条件とします。2)図書館情報学研究を行う学生は、①図書館司書資格課程履修中、②3年次後期より始まる学校図書館司書教諭課程履修予定であることを条件とします。

【評価方法】

1)演習課題の提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
2)出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
3)欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習 I

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。

特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、それらを比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. 発表資料は、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者の資料は、①「琉歌百控」（岩波書店『新日本古典文学大系』）の原歌・読み・解釈・発表者の訳を記載すること。②語釈（言葉の文法的解釈、沖縄古語辞典などを参照する）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を『琉歌全集』などで調べて記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて理解を深めること。
5. 学年末には、それぞれの発表をまとめた『琉歌研究』を発刊する。

【履修上の注意事項】

1. 最初の授業時に、発表日程を決める。
2. 発表者が発表資料作成に当たって研究室で相談を受ける場合、あらかじめ連絡すること。
3. 発表者は、無断欠席をしないこと。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

演習 I

担当教員 西岡 敏

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習 I

担当教員 仁野平 智明

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献購読などをおこなうなどして理解の深化を促す予定である。

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習 I

担当教員 大城 朋子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態

単位数 2.0

【授業のねらい】

言語・コミュニケーションについて人間・文化・社会との関りにおいて考え、そこに存在する課題に取り組んでいきます。属性とことば、言語行動、言語生活、言語接触、言語意識、言語習得等の社会言語学領域の文献や日本語教育に関する文献を徹底的に読み込んでいきます。その際に、レジメを作成しPPを使って発表を行います。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・論文の読み方→レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 資料収集の進め方・調査票作成→実際の調査

【履修上の注意事項】

自主的に論文を選択し、テーマを絞り研究に取り組み始めてほしい。それを通して、生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組み姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

ダニエル・ロング他著『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社、他資料を適宜使用。

【参考文献】

牧野成一『ウチとソトの言語学』（アルク社）他

演習 I

担当教員 田場 裕規

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

第1回～第7回までは、テキストを用いて講義及びグループワークを行い、第8回～第12回までは万葉集歌についての個人発表を行う予定。第13回～第15回は古典教育に関する実践研究や研究論文を読み、討議する。

- 1 ガイダンス
- 2 万葉集研究について
- 3 万葉集と風土
- 4 万葉集と歴史
- 5 万葉集と植物
- 6 万葉集第1期～第2期概説
- 7 万葉集第3期～第4期概説
- 8 雄略天皇の歌
- 9 柿本人麻呂の歌（近江荒都歌）
- 10 柿本人麻呂の歌（安騎野歌）
- 11 有間皇子の歌
- 12 大伴家持の歌
- 13 荒木繁「民族教育としての古典教育——万葉集を中心として——」
- 14 大村はま「古典入門」
- 15 渡辺春美「戦後古典教育論の展開—昭和四〇年代を中心に—」

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。④テキストを熟読すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

坂本 信幸・毛利 正守（編集）『万葉事始』（和泉書院）735円

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅱ

担当教員 高橋 俊三

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

「日本語学演習Ⅰ」で収集した資料をお互いに検討のうえ、結論を出し、報告書を印刷する。一人では無理かもしれないことを、共同で行なうことによって、克服しようとするものである。日本語の記述的研究の方法と、フィールド調査の方法と、共同調査の方法の修得をめざす。この体験を通して、卒業論文（学術論文）作成の力を養いたい。科学的思考法を身に付けるのを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	調査資料の検討
2	調査資料の検討
3	調査資料の検討
4	調査資料から詳しい小テーマを決定する。
5	調査資料から詳しい小テーマを決定する。
6	小テーマごとに班を編成する。
7	判ごとに結論を出し、それを全体で討議する。
8	班ごとに結論を出し、それを全体で討議する。
9	班ごとに結論を出し、それを全体で討議する。
10	報告書の目次を決め、執筆分担を決める。
11	報告書の原稿の校正
12	報告書の原稿の校正
13	報告書作成の作業分担の決定
14	報告書の印刷
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

学生が主体的に企画し、実行して行き、自主的に研究するようにしてほしい。また、個人個人の長所を生かして、全体に関わって行くようにしてほしい。共同調査の長所と楽しさを体験してほしい。登録上限数を上回った場合は、初回講義時に面談を行い決定する。

【評価方法】

演習への参加の積極性、発表、質疑応答を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

飯田春巳・中山緑朗編集『概説日本語学』（明治書院）。

演習Ⅱ

担当教員 葛綿 正一

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

- ①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅱ

担当教員 兼本 敏

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

大学の科目で「演習」は独特です。演習では、トピックに関して調べ、発表し、お互いに意見を交換し合います。発表したことを文字で表現してもらいます。その際、表現に関する規則を学習します。

キーワード：論文、先行研究、参考文献、引用

【授業の展開計画】

1. テーマ選定 (卒論に向けて)
2. テーマ選定 (卒論に向けて)
3. 研究方法についてのガイダンス
4. ※ 発表
5. ※ 意見交換
(以降 ※を継続)
6. 最終提出とゼミ論集の編集

【履修上の注意事項】

無断欠席は減点。携帯電話は切る (減点)

【評価方法】

発表と提出論文 80% 意見交換 20% 減点方式で評価する。

【テキスト】

指定無しですが、論文を書くために必要な書籍は各自で読んでおくようにしてください。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 大野 隆之

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づいて調査研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。なお、3年生の段階では、興味・関心のある分野・テーマの基礎知識の整理に重点を置くため、文献調査を徹底的におこない、ゼミ論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	中間発表／個別指導①
3	中間発表／個別指導②
4	中間発表／個別指導③
5	中間発表／個別指導④
6	ゼミ論執筆：個別指導①
7	ゼミ論執筆：個別指導②
8	ゼミ論執筆：個別指導③
9	ゼミ論執筆：個別指導④
10	ゼミ論発表／質疑応答①
11	ゼミ論発表／質疑応答②
12	ゼミ論発表／質疑応答③
13	ゼミ論発表／質疑応答④
14	ゼミ論発表／質疑応答⑤
15	ゼミ論発表／質疑応答⑥ 16回 ゼミ論提出
16	

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、あらゆる情報手段を活用して必要な資料・情報源を収集し、テーマに関する基礎知識を整理すること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき、各自が関連資料の調査・収集・選択することを基本とする。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅱ

担当教員 山口 真也

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行い、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につける。3年次は個人研究発表を行い、4年次は発表前の準備に協力し、発表への評価、コメントを行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期オリエンテーション①：発表日程の決定・就職ガイダンス
2	後期オリエンテーション②：レジュメの作成方法・引用・著作権・発表方法
3	個人研究発表①
4	個人研究発表②
5	個人研究発表③・卒業研究題目仮登録
6	個人研究発表④
7	個人研究発表⑤
8	個人研究発表⑥
9	個人研究発表⑦
10	個人研究発表⑧
11	個人研究発表⑨
12	個人研究発表⑩
13	個人研究発表⑪
14	個人研究発表⑬
15	個人研究発表⑭
16	

【履修上の注意事項】

演習Ⅰと同じ。

ゼミ生が13名を越える場合は、人数分の補講を12月末、または2月に行うことがあります。

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価する。
- 2) 出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。
- 3) 欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅱ

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. レジュメは、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者のレジュメには、①琉歌百控（新日本古典文学大系）の原歌・解釈・発表者の訳、②語釈（言葉の文法的解釈、「沖縄古語大辞典」などを参照）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を『琉歌全集』などを参考に記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べること。

【履修上の注意事項】

最初の授業時に、発表日程を決める。発表者は、あらかじめ指導を受けること。発表者であるにも拘らず、当日に無断欠席した場合は単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

演習Ⅱ

担当教員 西岡 敏

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅱ

担当教員 仁野平 智明

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献購読などをおこなうなどして理解の深化を促す予定である。

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅱ

担当教員 大城 朋子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

グループに別れ共同研究を行います。テーマの決定、資料収集、調査計画、実際の調査、分析・考察、そして発表等を経て論文にまとめます。このような一連の研究のプロセスを体験することにより、論理的な思考態度の基本を身につけ、卒業論文作成に向けて基礎的な力を養っていきます。

【授業の展開計画】

1. 資料収集・調査票作成→実際の調査
2. 調査結果の検討→調査の発表及び討議
3. 報告書作成・印刷

【履修上の注意事項】

自主的に研究に取り組み、生きたことばの面白さ、そして研究の面白さを体験してほしい。

【評価方法】

共同研究への取り組み姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

真田信治編『社会言語学の展望』くろしお出版、他資料も適宜使用

【参考文献】

町田健著『社会言語学のしくみ』研究社、他

演習Ⅱ

担当教員 田場 裕規

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表①
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

書道及び書道史Ⅱ

担当教員 神谷 俊男

配当年次 3年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は中学校・高等学校の書写書道教育に必要な知識技能を修得させるために以下の事項を学習する。

- ①漢字(行書)や平安朝「かな」の毛筆実習②篆刻(印鑑制作)③硬筆(年賀状、履歴書の書き方、筆順等)の学習
④文部科学省後援「硬筆毛筆書写検定試験」の問題演習⑤日本・中国書道史概説、書道概論等

【授業の展開計画】

- 1後期講義概要と受講心得。『筆順部首名等小テストⅠ』〈15分〉…テキスト「改訂基本ペン習字」、B鉛筆持参
2行書の基本用筆法実習(楷書との相違点留意)…半紙、毛筆用具一式、「改訂基本ペン習字」等持参
3硬筆学習(行書の書法)…「改訂基本ペン習字」、ボールペン、B鉛筆、30cm定規、フェルトペン持参
4王羲之書「蘭亭序」臨書①…半紙に4字ずつ、計4枚16字毛筆で練習。新聞紙、「改訂基本ペン習字」持参
5『蘭亭序』の臨書②…半切(縦136x横34cmの用紙)に14~16字清書提出・『筆順部首名等小テストⅡ』(15分)
6「硬筆毛筆書写検定試験問題演習」…「改訂基本ペン習字」・B鉛筆・30cm定規・フェルトペン等持参
7篆刻①…印稿作成(各自の名前をテキストで調べ印材の大きさに書く)・B鉛筆・フェルトペン等持参
8篆刻②…印材(青田石)に布字し、印刀で刻す。印稿・B鉛筆・フェルトペン・紙やすり荒細2種類持参
9篆刻③…印鑑仕上げ(印稿、印泥か朱肉、セロテープ、はさみ、紙やすり等持参)。印帽作成。
10年賀状の書き方①…毛筆で年賀状を書く(小筆使用)。年賀はがき、B鉛筆、定規、印鑑(印材)、毛筆用具一式持参
11年賀状の書き方②…個性的な年賀状を書く(筆記具自由)。年賀はがき持参
12書き初め作品・『基本ペン習字』提出…書き初め用紙、書き初め用下敷、印鑑(印材)、毛筆用具一式持参
13平安朝「かな」の毛筆書(小筆、半紙使用)…毛筆用具一式持参。「改訂基本ペン習字」返却
14書道史概説(日本・中国書道史)。今回までに未提出物があれば提出して検印受けること。
15書道概論(書とは?、かなの字源、書写体、現代書道等について)。提出物(ファイル等含む)の最終締切り
16期末考査

【履修上の注意事項】

「書道及び書道史Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。書道技能は継続してこそ体得できるものである。よって皆出席と意欲的な授業参加を希望する。自宅での自主学習を大いに奨励する。書道用具、篆刻用具(青田石、印刀、印泥か朱肉、紙やすり等)、テキストは各自購入すること。書道用具(特に筆・硯)は学内で洗わず各自宅で洗うこと。受講生は授業内容と関連する「文科省後援硬筆毛筆書写検定試験」(11月実施)をできるだけ受験し準1級~3級の資格を取得しよう。提出物は欠席の理由に関係なく後日提出すること。

【評価方法】

- ①出席状況(出欠遅刻の多少)及び授業への参加姿勢の積極度(無断退出、未提出物有り、無添削、私語等減点)。
②「改訂基本ペン習字」、毛筆作品(半紙、半切、書き初め用紙)、篆刻作品(印鑑、印稿等)、年賀状(2枚)、ファイル
その他課題の提出物の有無。
③『筆順部首名等小テスト』(2回実施)、期末考査の結果。

【テキスト】

「教師作成の手本及び教材プリント」。「改訂基本ペン習字」(今城昭二著/教育図書株式会社発行)…前期受講者は購入必要なし。「新版篆刻の実習」(蓑毛政雄著)、印材(青田石)、印刀…学内、朝野書房にて購入。

【参考文献】

授業時、随時紹介する。インターネット検索紹介もあり。

地域データベース演習

担当教員 伊佐 常利・芳山 紀子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。2年次までににおいてパソコンの基礎導入である、ソフトウェア操作について体系的な学習を受けた者、および、同等の知識・技術を持っている者を対象とします。

本講義では、前学年までに習得したExcel・Wordなどの基礎的なIT活用技術を基に、文系の学生のための更なる高度な分野でのITスキルの習得をめざし、卒業年度までに、個々人でJavaと連携した簡単なデータベースを構築することを最終目的とします。

【授業の展開計画】

- 1 Java1
- 2 Java2
- 3 Java3
- 4 Java4
- 5 SQL文1
- 6 SQL文2
- 7 SQL文2
- 8 HTML－HTMLの基礎とテーブルの作成
- 9 JSPとSQLの連携1
- 10 JSPとSQLの連携2
- 11 JSPとSQLの連携3 1
- 12 課題作成
- 13 課題作成
- 14 課題作成
- 15 総括とまとめ

【履修上の注意事項】

本授業は、人文情報基礎、データベース論の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数 が全授業回数の2／3に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

すべてオリジナルテキスト（アプロスコンピュータ学院）

【参考文献】

必要に応じて配布

地域データベース論

担当教員 島村 岳・芳山 紀子

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考 琉球文化・日本文化コースは選択科目

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

パソコンの初歩的知識・技術を習得している者。2年次までにおいてパソコンの基礎導入である、ソフトウェア操作について体系的な学習を受けた者、および、同等の知識・技術を持っている者を対象とします。

公的機関・民間機関を問わず、ビジネスの現場では様々な情報がデータベースの形で管理されているネット社会の今日、単なるソフトウェアの操作でなく、Accessというデータベースソフトを活用し、データベースの基礎概念形成をその目的とします。

【授業の展開計画】

「授業のねらい」の続き

授業後半（1回目以降）はFlashを用いたWebアニメーションの作成方法で学習します。

データベースの設計、基本的なデータベースの作成、そしてデータベースの応用を体系的に学習し、将来的には、Accessなどのアプリケーションソフトに依存しない、独自のデータベースの構築ができるよう、その前提知識を習得します。

- 1 データベースとは Accessの概要 データベースの設計と作成
- 2 テーブルの概要 マスターの作成 テーブルの作成1 データのインポート他
- 3 リレーションシップの作成 クエリの概要 クエリを使ったデータの作成1
- 4 クエリの作成2 条件に合致するデータの抽出 データの集計 その他
- 5 フォームの概要 フォームの作成
- 6 レポートの概要 マスターの作成1 宛名印刷他
- 7 ピボットテーブルとピボットグラフ
- 8 総括とまとめ
- 9～15 FlashによるWebアニメーション作成

【履修上の注意事項】

本授業は、人文情報基礎、データベース論、文化情報学基礎演習（情報クラス）の単位取得者を対象とし、パソコン上級者向け授業と位置づける。（上記2科目の単位を取得していない学生は受講できない）

【評価方法】

演習課題の提出状況、出席・遅刻状況、学習態度、実力判定試験などを総合的に判断し、評価する。（出席回数が全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えない。）

【テキスト】

Access2003（FOM出版） サブ教材：必要に応じて配布

【参考文献】

日本語教育実習Ⅰ

担当教員 大城 朋子

配当年次 3年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 実験実習

単位数 1.0

【授業のねらい】

「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ指導理論と演習内容を実際に応用していく。「教育実習Ⅰ」では、主に大学内の日本語クラスの授業見学を行い、評価及び報告レポートを提出する。また、初級レベルと中級レベルの模擬授業実習も行う。その際、授業実践の方法論をふまえながら学習指導案や教材作成もする。協定校からの短期研修生のための日本語研修期間中には、グループ・ティーチングなども行う。

【授業の展開計画】

具体的には、「授業見学」「授業見学の評価と報告」「指導案の書き方」「初級レベルの模擬授業」「中級レベルの模擬授業」「教材作成」「模擬授業の評価とフィードバック」「グループレッスン担当」等となる。

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本現代語文法」「日本語教材研究演習」「日本教授法演習」を履修済みのこと。

【評価方法】

総合的に評価するが、特に平常点を重視。依って、授業見学、報告発表、レポート提出等が重視される。そして模擬授業、グループレッスン等の取り組み等が評価される。

【テキスト】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考文献】

『日本語授業学入門』縫部 義憲，『自己研修型教師を目指せ！』川口義一・横溝紳一郎著

日本語教授法演習Ⅱ

担当教員 上原 明子

配当年次 3年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考 日本語教員資格科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球文学特殊講義 I

担当教員 宮城 茂雄

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球文学特殊講義Ⅱ

担当教員 宮城 茂雄

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

琉球方言学特殊講義 I

担当教員 高橋 俊三

配当年次 3年

単位区分 選必

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

【授業のねらい】

組踊の台詞の国語学的考察と共通語訳付きデータベースの作成を目標とする。

【授業の展開計画】

- 1 本講義のねらいと方法
- 2 琉球方言の方言区画と琉球方言の歴史
- 3 組踊の研究史
- 4 組踊台詞の存在状況
- 5 組踊台詞の国語学的考察（名詞・代名詞・副詞・連体詞）
- 6 組踊台詞の国語学的考察（形容詞）
- 7 組踊台詞の国語学的考察（動詞基本形）
- 8 組踊台詞の国語学的考察（動詞フリ・アリ融合形）
- 9 組踊台詞の国語学的考察（動詞タリ融合形）
- 10 組踊台詞の国語学的考察（動詞アリ・フリ融合形）
- 11 組踊台詞の国語学的考察（活用形）
- 12 組踊台詞の国語学的考察（活用形）
- 13 組踊台詞の国語学的考察（活用の種類）
- 14 組踊台詞の国語学的考察（活用の種類）
- 15 まとめと今後の研究のあり方

【履修上の注意事項】

特殊分野の講義なので、今やっていることの位置を考えると、積極性的に向かい合うことが大事である。

【評価方法】

出席状況と、授業中の討議への参加状況と、レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。配付資料（プリントとフロッピー）により講義する。

【参考文献】

琉球方言学特殊講義Ⅱ

担当教員 高橋 俊三

配当年次 3年

単位区分 選必

関連資格

備考 日本文化・人文情報コースは選択科目

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

組踊台詞の共通語訳付きデータベースの作成をめざす。その作業の過程で台詞の実例に基づく国語学的考察もする。

【授業の展開計画】

- 1 組踊台詞の選定
- 2 組踊台詞の選定
- 3 組踊台詞の入力
- 4 組踊台詞の入力
- 5 組踊台詞の入力
- 6 組踊台詞の共通語による逐語訳
- 7 組踊台詞の共通語による逐語訳
- 8 組踊台詞の共通語による逐語訳
- 9 組踊台詞の共通語による逐語訳
- 10 重要語の文法的分析
- 11 重要語の文法的分析
- 12 逐語訳の再検討
- 13 逐語訳の再検討
- 14 データベースの完成・印刷
- 15 全員による講評。

【履修上の注意事項】

データベースの作成作業もあるので、そのことを念頭に受講すること。

【評価方法】

出席状況と授業中の討議への参加状況とデータベースの内容を総合的に勘案しておこなう。

【テキスト】

適宜に指摘する。

【参考文献】

『沖縄古語大辞典』（角川書店）

演習Ⅲ

担当教員 高橋 俊三

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

日本語研究の意義と残されている課題などを話し合い、受講者全員で調査テーマを決定する。そのテーマによって、調査方法、調査資料を決定し、必要なら夏休みに実地調査を行なう。一人では無理かもしれないことを、共同で行なうことによって、克服しようとするものである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本語研究の意義と方法
2	日本語研究の歴史
3	日本語研究の歴史
4	昨年度のゼミ報告書の批評
5	本年度のテーマを何にするかについての討議
6	本年度のテーマの決定
7	本年度のテーマに関する研究文献の調査
8	テーマに関する過去の論文の読み合わせ
9	テーマに関する過去の論文の読み合わせ
10	テーマに関する調査法の討議
11	テーマに関する資料の収集
12	テーマに関する資料の収集
13	テーマに関する資料の検討
14	テーマに関する資料の検討
15	今後の研究方法についての討議
16	

【履修上の注意事項】

学生が主体的に企画し、実行して行き、自主的に研究するようにしてほしい。また、個人個人の長所を生かして、全体に関わって行くようにしてほしい。共同調査の長所と楽しさを体験してほしい。登録上限数を上回った場合は、初回講義時に面談を行い決定する。

【評価方法】

演習への参加の積極性、発表、質疑応答を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

飯田春巳・中山緑朗編集『概説日本語学』（明治書院）。

演習Ⅲ

担当教員 葛綿 正一

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	演習の進め方	17	発表する (8)
2	調べる (1)	18	発表する (9)
3	調べる (2)	19	発表する (10)
4	調べる (3)	20	発表する (11)
5	調べる (4)	21	発表する (12)
6	分析する (1)	22	発表する (13)
7	分析する (2)	23	発表する (14)
8	分析する (3)	24	発表する (15)
9	分析する (4)	25	ゼミ論集の制作 (1)
10	発表する (1)	26	ゼミ論集の制作 (2)
11	発表する (2)	27	ゼミ論集の制作 (3)
12	発表する (3)	28	ゼミ論集の制作 (4)
13	発表する (4)	29	まとめ (1)
14	発表する (5)	30	まとめ (2)
15	発表する (6)	31	
16	発表する (7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅲ

担当教員 兼本 敏

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

3年次に作成したゼミ論を発表してもらいます。そのテーマになぜ興味を持ち、どんな問題の発見があったかをきちんと説明できるようにしておいてください。授業は、発表・討論形式で行います。

【授業の展開計画】

1. ガイダンス
2. 発表のテーマについて
3. 発表のスケジュール
4. ※ 発表
5. ※ 意見交換
(以降 ※を継続)
6. 夏季休業における個別計画について

【履修上の注意事項】

欠席は減点、携帯電話は切る（減点）

【評価方法】

発表 70% 論議 30%（文書でも提出）

【テキスト】

特に指定はしませんが、論文と報告書の違いが説明できるような書籍を教科書をして読んでください。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 大野 隆之

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、演習のすすめ方、班編成、テキストの決定。
- 2、問題のたて方。
- 3、資料の蒐集法。
- 4、模擬演習。
- 5、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。生涯学習社会・情報社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究を進め、その内容を発表し、質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらにアンケート調査の実施や集計結果の考察を深め、卒論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成作業について
2	執筆スケジュールの組み方
3	テーマ設定・研究方法の確定
4	資料・情報の収集方法
5	論文の構成方法について
6	内容発表・質疑応答・討議について
7	テーマと方法論の発表／個別指導①
8	テーマと方法論の発表／個別指導②
9	テーマと方法論の発表／個別指導③
10	テーマと方法論の発表／個別指導④
11	進行状況・問題点の発表／個別指導①
12	進行状況・問題点の発表／個別指導②
13	進行状況・問題点の発表／個別指導③
14	進行状況・問題点の発表／個別指導④
15	進行状況・問題点の発表／個別指導⑤ 16回 試験(まとめ)
16	

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成作業を着実に進めること。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに関する関連資料を収集して基礎知識を持ち、さらに図書館現場への調査活動をもおこなう。必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅲ

担当教員 山口 真也

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、講義、レジュメの作成、研究発表、討論を通じて、各自が興味関心を持つ専門分野の研究方法を学び、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(1)：履修上の注意、授業の内容紹介、論文集の配布、発表日程の決定
2	オリエンテーション(2)：就職活動と研究活動の両立・就職ガイダンス
3	個人研究テーマの決定(1)：テーマ決定方法、先行研究の調査方法(図書編)
4	個人研究テーマの決定(2)：先行研究の調査方法(雑誌編)
5	卒業論文報告(1)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
6	卒業論文報告(2)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
7	卒業論文報告(3)：昨年度の卒業論文集掲載論文のテーマに関するグループ討論
8	個人研究テーマの決定(3)：先行研究の調査方法(新聞記事・辞書事典・各種データ編)
9	個人研究テーマの決定(4)：研究計画書の作成方法
10	卒業論文中間報告(1)：4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
11	卒業論文中間報告(2)：4年生が現在取り組んでいる卒論テーマの紹介
12	個人研究テーマ発表(1)
13	個人研究テーマ発表(2)
14	個人研究テーマ発表(3)
15	個人研究テーマ発表(4)
16	

【履修上の注意事項】

演習Iと同じ。

【評価方法】

演習Iと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅲ

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

それぞれの研究テーマを発表する。琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉球文学には、琉球の士族社会で生まれたオモロ・琉歌・説話・古典芸能・記載文学などと、庶民社会で育まれた歌謡・説話・民俗芸能などがあるが、それらは相互に影響関係にある。そのことを考慮して、研究を進めること。特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにすること。

【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. 発表資料作成に当たって指導を希望する学生は、あらかじめ連絡して研究室で指導を受けること。
3. 発表資料は、パソコンで作成すること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べて理解を深めること。

【履修上の注意事項】

発表者が無断欠席した場合は単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表資料・発表内容・質疑の総合評価。

【テキスト】

なし

【参考文献】

必要に応じて、その都度指示する。

演習Ⅲ

担当教員 西岡 敏

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅲ

担当教員 仁野平 智明

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献購読などをおこなうなどして理解の深化を促す予定である。

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅲ

担当教員 大城 朋子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語学や社会言語学の関係資料の読み込み、比較分析、考察、そして議論を行ない、卒業論文の執筆のための視点を培っていきます。

【授業の展開計画】

1. ゼミ運営の方針説明・レジメの作り方
2. 学術論文を読み込む
3. テーマと研究方法の選択決定・アウトライン作成
4. 資料収集・実際の調査

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み、研究の奥深さを体験してほしい。

【評価方法】

取り組みに対する姿勢、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

宇佐美まゆみ『言葉は社会を変えられる』明石書店、他論文や資料を適宜使用。

【参考文献】

各自で選ぶ論文

演習Ⅲ

担当教員 田場 裕規

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 前期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

第1回～第7回までは、テキストを用いて講義及びグループワークを行い、第8回～第12回までは万葉集歌についての個人発表を行う予定。第13回～第15回は古典教育に関する実践研究や研究論文を読み、討議する。

- 1 ガイダンス
- 2 万葉集研究について
- 3 万葉集と風土
- 4 万葉集と歴史
- 5 万葉集と植物
- 6 万葉集第1期～第2期概説
- 7 万葉集第3期～第4期概説
- 8 雄略天皇の歌
- 9 柿本人麻呂の歌（近江荒都歌）
- 10 柿本人麻呂の歌（安騎野歌）
- 11 有間皇子の歌
- 12 大伴家持の歌
- 13 荒木繁「民族教育としての古典教育——万葉集を中心として——」
- 14 大村はま「古典入門」
- 15 渡辺春美「戦後古典教育論の展開—昭和四〇年代を中心に—」

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。④テキストを熟読すること。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

坂本 信幸・毛利 正守（編集）『万葉事始』（和泉書院）735円

【参考文献】

必要に応じて指示する。

演習Ⅳ

担当教員 高橋 俊三

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

「日本語学演習Ⅰ」で収集した資料をお互いに検討のうえ、結論を出し、報告書を印刷する。一人では無理かもしれないことを、共同で行なうことによって、克服しようとするものである。日本語の記述的研究の方法と、フィールド調査の方法と、共同調査の方法の修得をめざす。この体験を通して、卒業論文（学術論文）作成の力を養いたい。科学的思考法を身に付けるのを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	調査資料の検討
2	調査資料の検討
3	調査資料の検討
4	調査資料から小テーマを決定する。
5	調査資料から小テーマを決定する。
6	調査資料から小テーマを決定する。
7	小テーマごとに班を編成する。
8	班ごとに結論をだす。
9	班ごとに結論をだす。
10	報告書の目次を決め、執筆分担を決める。
11	報告書の原稿の校正
12	報告書の原稿の校正
13	報告書作成の作業分担の決定
14	報告書の印刷
15	総括
16	

【履修上の注意事項】

学生が主体的に企画し、実行して行き、自主的に研究することと、個人個人の長所を生かして、全体に関わって行くようにする。また、共同調査の長所と楽しさを知ること。
登録上限数を上回った場合は、初回講義時に面談を行い決定する。

【評価方法】

演習への参加の積極性、発表、質疑応答を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献】

飯田春巳・中山緑朗編集『概説日本語学』（明治書院）。

演習Ⅳ

担当教員 葛綿 正一

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本演習は日本の古典文学・文化に関する演習を行うものである。今年度は特に狂言を取り上げる。狂言作品を一つ一つ取り上げながら注釈を試み、笑いの問題、オノマトペの効用などについて考える。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	演習の進め方	17	発表する(8)
2	調べる(1)	18	発表する(9)
3	調べる(2)	19	発表する(10)
4	調べる(3)	20	発表する(11)
5	調べる(4)	21	発表する(12)
6	分析する(1)	22	発表する(13)
7	分析する(2)	23	発表する(14)
8	分析する(3)	24	発表する(15)
9	分析する(4)	25	ゼミ論集の制作(1)
10	発表する(1)	26	ゼミ論集の制作(2)
11	発表する(2)	27	ゼミ論集の制作(3)
12	発表する(3)	28	ゼミ論集の制作(4)
13	発表する(4)	29	まとめ(1)
14	発表する(5)	30	まとめ(2)
15	発表する(6)	31	
16	発表する(7)		

【履修上の注意事項】

九月にゼミ合宿の実施、二月にゼミ論集の完成を予定している。

毎回、小レポートの提出を義務づける。

厳しく学び合う場にしたいので、意欲の乏しい人は受講を遠慮してほしい。

【評価方法】

発表内容、出席状況、授業への参加姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

そのつど紹介する。

【参考文献】

そのつど紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

基本的には近現代の文学テキストを取り上げますが、毎年異なるテーマ、課題を設定します。一つのテーマをめぐって真剣に考え、かつ論じ合うゼミナールの醍醐味、楽しさを知ってもらいたい。

【授業の展開計画】

- 1 ゼミ運営の方針説明
- 2 レジュメの作り方
- 3 調査、資料収集の方法
- 4 学術論文のスタイル
- 5 発表及び討議
- 6 ゼミ論文の作成
- 7 ゼミ報告集の編集作業

【履修上の注意事項】

夏期合宿への参加は必須です。

【評価方法】

①発表 ②ゼミ活動への取り組みの姿勢、貢献度 ③出席

【テキスト】

プリント使用。

【参考文献】

取り上げる作品に応じて適宜指示します。

演習Ⅳ

担当教員 兼本 敏

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

既に発表してもらったゼミ論をより完成度の高い論文として見直していきます。そのテーマになぜ興味を持ち、それに対する先行研究はどのようなものであるか、更に研究目的、方法が明確に述べられているかを自己採点出来るように。

【授業の展開計画】

1. オリエンテーション
2. 個別指導
3. 個別指導
4. 個別指導
5. ※ 意見交換
(以降 ※を継続)
6. ゼミ論集の編集

【履修上の注意事項】

欠席は減点、携帯電話は切る（減点）

【評価方法】

最終作品としてのゼミ論 80%
クラスでの参加（質疑応答） 20%

【テキスト】

指定無し

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 大野 隆之

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

日本近代文学の諸作品を徹底的に読み込む。研究・批評と、単なる感想文との差異を十分に自覚し、自己の研究スタイルを確立する。さらに他者の見解を十分理解したうえで、批判的に討議する能力を身につける。

【授業の展開計画】

- 1、前期演習の反省。
- 2、後期の問題設定。
- 3、報告と討議。

【履修上の注意事項】

報告および学年末のレポートが評価の中心となるが、報告者以外の討議の姿勢を十分に加味する。「現代文学理論」未受講の者は同時に受講すること。学年末にはゼミ報告書を発行する。

過年度生は「演習一」に読み替える。

【評価方法】

【テキスト】

基本的に、各自が選択する。どのようなテキストを選ぶか、それ自体がすでに研究の一部である。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのコンセプトは「お互いに学びあうこと」。情報メディア社会における各種図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野で、各自が設定したテーマに基づき調査・研究をすすめ、その内容を発表し質疑応答・討議をおこなう。4年次では、3年次で文献調査を通してまとめた基礎知識を踏まえた上で、さらに図書館現場へのアンケート調査などにより考察を深め、卒論としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：後期日程について
2	中間発表／個別指導①
3	中間発表／個別指導②
4	中間発表／個別指導③
5	中間発表／個別指導④
6	論文執筆：個別指導①
7	論文執筆：個別指導②
8	論文執筆：個別指導③
9	論文執筆：個別指導④
10	論文発表・質疑応答／個別指導①
11	論文発表・質疑応答／個別指導②
12	論文発表・質疑応答／個別指導③
13	論文発表・質疑応答／個別指導④
14	論文発表・質疑応答／個別指導⑤
15	論文発表・質疑応答／個別指導⑥ 16回 卒業論文提出
16	

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成の後期段階を着実に進めること。
論文発表時には、各自レジュメを準備・配布し、口頭による丁寧な補足説明をおこなうこと。

【評価方法】

各自の発表、及び出席回数と討議への参加姿勢も含めて総合的に評価する。

【テキスト】

設定したテーマに基づき関連資料を収集することを基本とする。
必要に応じ、調査方法・関連資料などを紹介する。

【参考文献】

演習Ⅳ

担当教員 山口 真也

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本ゼミのテーマである「表現の自由(知る自由)研究」「図書館情報学研究」「文化情報データベース・ソフトウェア制作」に関するさまざまなテーマを取り上げ、個人ごとに研究発表を行い、卒業論文の作成、卒業制作を行うための基本的な知識、技術を身につける。3年次は個人研究発表を行い、4年次は発表前の準備に協力し、発表への評価、コメントを行う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	後期オリエンテーション①：発表日程の決定・就職ガイダンス
2	後期オリエンテーション②：レジュメの作成方法・引用・著作権・発表方法
3	個人研究発表①
4	個人研究発表②
5	個人研究発表③・卒業研究題目仮登録
6	個人研究発表④
7	個人研究発表⑤
8	個人研究発表⑥
9	個人研究発表⑦
10	個人研究発表⑧
11	個人研究発表⑨
12	個人研究発表⑩
13	個人研究発表⑪
14	個人研究発表⑫
15	個人研究発表⑬
16	

【履修上の注意事項】

演習Ⅱと同じ。

ゼミ生が13名を越える場合は、人数分の補講を12月末、または2月に行うことがあります。

【評価方法】

演習Ⅱと同じ。

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

適宜指示する。

演習Ⅳ

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

主として琉歌研究であるが、琉球文学の範囲内であれば発表者の希望に応じた内容でも構わない。琉歌の発表者は、各々が選択した琉歌を解釈し、その問題点から派生するテーマに基づいて考察して発表する。

特に琉歌は本土の和歌や歌謡の影響を強く受けている作品が多いので、比較することで、研究対象の特質を明らかにする。

【授業の展開計画】

1. 受講生全員の発表内容の確定。
2. レジュメは、パソコンで作成すること。
3. 琉歌発表者のレジュメには、①琉歌全集の原歌・評釈・発表者の訳、②語釈（言葉の文法的解釈）、③テーマを考察するために必要な琉歌（類歌等）等を記載し、必要に応じて、作者・時代背景などにも触れること。
4. 発表を聞く学生は、質問または感想を述べること。

【履修上の注意事項】

最初の授業時に、発表日程を決める。発表者は、あらかじめ指導を受けること。発表者であるにも拘らず、当日に無断欠席した場合は単位を認めない。

【評価方法】

出席点・発表レジュメ・発表の方法・質問内容による総合評価。

【テキスト】

【参考文献】

『琉歌全集』 『沖縄古語大辞典』 『琉歌大成』 『琉歌百控』 等。

演習Ⅳ

担当教員 西岡 敏

配当年次 4年

単位区分 必

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

琉球語諸方言に関する調査・記述を行ないます。ある方言を記述する場合には、まず語彙の収集と音素体系の確立から始め、そののち、収集語彙の音素的記述、形態や文法の調査などを行なって記述を広げていきます。言語を研究するときの基本的な文法概念について学び、テキストの収集（録音）と記述、および、それについて註釈を付けることも試みます。ある方言を別の方言と比べることも、必要になってくる場合があります。

【授業の展開計画】

初めは、琉球語に関する本を読んだりメディアにふれたりして、琉球語についての理解を深めます。また、琉球語諸方言を記録として書き留める練習をします。

その後、琉球語諸方言に関するテーマを決め、それについて実際に調査・記述します。音韻論・形態論（動詞や形容詞の活用など）・文法論・語彙論・アクセント論・敬語論・言語地理学・言語民俗学などの研究分野が考えられますので、グループごとにテーマを絞り、調査・分析を進めます。とくに、今まで調査があまりされていない方言の記述・分析が奨励されます。文法記述、辞書（語彙集）作成、テキスト収集などが大きな目標となります。音声テキストおよび画像資料の収集と、そのデジタル化も、これからの大切な仕事です。地元方言（地方語）の再活性化という問題も考えていきます。

まず教室で、先行文献の検討、調査表の作成、予備調査などを行ないます。その後、実際に現地に赴いて野外調査（フィールドワーク）を行ないます。再び教室に戻ったあと、集めた資料の整理をします。年度末には、みんなで一つの冊子を作り上げましょう。

【履修上の注意事項】

「日本語音声学」を受講済みのこと。音声学の知識は必須です。未受講の場合は、必ず受講のうえ、単位取得のこと。

年に数回、方言調査のフィールドワークを行ないます。聞き取り調査、調査の整理、補充調査に積極的に参加してください。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの準備および参加、演習の発表、提出レポートなどを総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

演習Ⅳ

担当教員 仁野平 智明

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

国語教育学における諸問題についてとりあげ、検討・考察する。各自が設定したテーマに基づいて、研究の方法論を学びつつ考察を深め、発表して質疑応答・討議を行う形式とする。

【授業の展開計画】

学生の発表及びそれに対する質疑応答・討議を中心とするが、必要に応じて国語教育学に関する文献購読などをおこなうなどして理解の深化を促す予定である。

【履修上の注意事項】

国語科教職課程を履修していること。
教師を志し、学ぶことの厳しさと楽しさを共有したいと願う者の受講を望む。

【評価方法】

発表内容、授業への取り組み、出席状況などをもとにして総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて紹介する。

【参考文献】

必要に応じて紹介する。

演習Ⅳ

担当教員 大城 朋子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

日本語学・社会言語学関係資料の比較分析、調査結果の分析や比較等、議論を交えながら進めていきます。

【授業の展開計画】

1. 調査結果に関する発表・討議
2. 学術論文の読み込み
3. 報告書作成

【履修上の注意事項】

積極的に課題に取り組み研究の奥深さを体験し、より論理的な視点を養ってほしい。

【評価方法】

研究への取り組み、発表内容、論文作成等を総合的に評価します。

【テキスト】

各自で選ぶ学術論文をテキストとします。

【参考文献】

卒論のテーマに沿った参考文献を各自で選択します。

演習Ⅳ

担当教員 田場 裕規

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本演習は、概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も扱い、「古典と教育」というテーマも併せて考察する。様々な視点から複眼的に思考することによって、「古典と教育」を論じ、学びの共同体を目指す。

【授業の展開計画】

演習Ⅰで学んだことを踏まえて、各自が設定した研究テーマについて調査・考察し、その報告と討議によって演習を進める。年度末には、ゼミ論集等を作成する。

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表①
- 3 研究発表
- 4 研究発表
- 5 研究発表
- 6 研究発表
- 7 研究発表
- 8 研究発表
- 9 研究発表
- 10 研究発表
- 11 研究発表
- 12 研究発表
- 13 研究発表
- 14 ゼミ論集等の作成
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

①無断欠席をしないこと。②レジュメ等プリント類を多く使うが、保持および保管は学生の責任において為すこと。余分に刷らない。③毎時間、A4一枚の課題を課し評価に加味する。

【評価方法】

①出席を重視する。②発表内容・演習に対する取り組みの姿勢等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

卒業論文

担当教員 高橋 俊三

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

卒業論文は「論文」の一種である。したがって、体系的な見地から論述された、実証的、独創的論文を目指す。なお、学科の申し合わせにより、科学的研究に利用できるような資料も卒業論文として認められる。皆で検討して、立派な論文・資料に仕上げるようにする。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業論文の要件	17	目次の書き方
2	卒業論文の資料収集法	18	本文の書き方
3	卒業論文の結論の出し方	19	後書の書き方
4	卒業論文中間発表	20	注・文献目録の書き方
5	卒業論文中間発表	21	卒業論文中間発表
6	卒業論文中間発表	22	卒業論文中間発表
7	卒業論文中間発表	23	卒業論文中間発表
8	卒業論文中間発表	24	卒業論文中間発表
9	卒業論文中間発表	25	卒業論文の体裁・表装
10	卒業論文中間発表	26	卒業論文仮提出
11	卒業論文中間発表	27	仮卒業論文の批評
12	卒業論文中間発表	28	仮卒業論文の批評
13	卒業論文中間発表	29	卒業論文本提出
14	前期の総括	30	総括
15	卒業論文の構成	31	
16	前書の書き方		

【履修上の注意事項】

日頃からコツコツとデータを集めることが、肝要である。成人儀礼の一つと思って、真剣に取り組んでほしい。物を生み出す苦しみや、喜びを体験できることを願う。

【評価方法】

卒業論文の体系的性、創造性、実証性により評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献】

適宜指示する。

卒業論文

担当教員 葛綿 正一

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

本講義は卒業論文の作成をめざすものである。研究史をまとめ、分析の視点を設定し、論文の構成について考える。こうした方法論は広く応用が可能だと思われるので、ぜひ身につけてほしい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	卒論とは何か	17	中間発表（8）
2	先行研究の整理（1）	18	中間発表（9）
3	先行研究の整理（2）	19	中間発表（10）
4	先行研究の整理（3）	20	中間発表（11）
5	先行研究の整理（4）	21	中間発表（12）
6	分析の視点（1）	22	中間発表（13）
7	分析の視点（2）	23	中間発表（14）
8	分析の視点（3）	24	中間発表（15）
9	分析の視点（4）	25	再検討（1）
10	中間発表（1）	26	再検討（2）
11	中間発表（2）	27	再検討（3）
12	中間発表（3）	28	再検討（4）
13	中間発表（4）	29	まとめ（1）
14	中間発表（5）	30	まとめ（2）
15	中間発表（6）	31	
16	中間発表（7）		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

卒業論文によって成績を評価するが、その際、先行研究の整理、分析の視点、論文の構成などを重視する。

【テキスト】

『枕草子・徒然草・浮世草子一言説の変容』

【参考文献】

そのつど指示する

卒業論文

担当教員 黒澤 亜里子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

各自が設定した課題、テーマについて調査・研究を行い、卒業論文をまとめます。

【授業の展開計画】

- 1 卒業論文の進め方 年間計画作成
- 2 調査、文献・資料収集の方法
- 3 参考文献目録の作り方
- 4 研究史のまとめ方
- 5 方法、視点の検討
- 6 小テーマの設定
- 7 仮説論証の練習
- 8 卒論テーマの確定
- 9 構想表の作り方
- 10 中間発表 ※夏期合宿での「中間発表会」をふくめ、各自年間3回以上
- 11 論文執筆
- 12 卒業論文の形式、体裁の確認
- 13 手直し／推敲／完成
- 14 合評会

【履修上の注意事項】

夏期合宿（卒論中間発表会）への参加は必須です。

【評価方法】

論文の内容、調査・研究方法、取り組みの姿勢、努力など総合的に評価します。

【テキスト】

各自の課題、テーマに応じて指導します。

【参考文献】

適宜指示します。

卒業論文

担当教員 兼本 敏

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

三年次で進めてきたテーマを卒業論文として完成させる授業です。これまでは発表を念頭において書いてきましたが、この授業では論文として書き上げてもらいます。大学四年間の集大成として各自の実力が現れるので全力を注ぎ、計画的に進めてください

【授業の展開計画】

1. テーマの確認、再検討
2. 序論の確認 問題提起の検討
3. 先行研究・参考文献・引用方法の確認
4. 分析・考察（論理的展開）の吟味
5. 「結論」の吟味 以上の項目を踏まえて論文を作成していきます。必要に応じて発表し、意見交換、討論を通して卒業論文の完成を目指します。入念な準備をもって発表に臨んでください。

【履修上の注意事項】

論文の形式、分量、提出期限の厳守。仮提出日は、12月の第1金曜日12:30です。

【評価方法】

内容によって評価します。

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じて適宜紹介します。

卒業論文

担当教員 大野 隆之

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

言うまでもなく卒業論文は学術論文であり、その単位が認められることで学士の称号が与えられる。したがってそれにふさわしい水準が当然のこととして要求される。そのためには、特に近代・現代文学を対象とする場合は、何よりも独創的な「問題のたて方」が重要である。作家の年譜を淡々と並べたり、無用な引用を長々としたあと、自分の人生観を披瀝するような随筆は学術論文ではない。問題をたてる、その問題に対処する適切な方法を選択し必要な資料をそろえる、独善に注意しながら慎重に考察を進める、わかりやすく論理的に執筆する、授業では、それら各段階のポイントを指導する。具体的には以下に示すような手順を進めていく予定である。

- 1、論文のスタイルⅠ。作家論か、作品論か。
- 2、論文のスタイルⅡ。資料中心の実証主義か、方法を中心とするか。
- 3、題目＝問題の設定。発表。
- 4、関連資料の収集。読解。
- 5、中間発表。
- 6、個別指導。
- 7、執筆。
- 8、卒業論文提出。

【履修上の注意事項】

4年次は就職や、資格取得等で多忙であるが、最初から分かっていることなので、しっかりとした年間計画を立てること。

なるべく全集を購入すること。

【評価方法】

【テキスト】

必要に応じプリントを配布する。参考文献については各自に指導する予定である。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 吉田 肇吾

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

生涯学習社会・情報社会における図書館について、図書館情報学を中心とする学問分野の諸問題から、各々が独自のテーマを自由に設定し、卒業論文を執筆することで論理的思考の展開方法を学ぶ。具体的には「問題解決能力」として、各自の問題設定能力→あらゆる情報手段を使用した資料収集能力→収集した各種資料の比較・検討・選択能力→論文作成→発表→質疑応答・討論という論文作成作業プロセスをたどることにより、コミュニケーション能力まで含めた、社会生活の中で重要な実践的能力を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：論文作成プロセス	17	中間発表①
2	執筆スケジュールの組み方	18	中間発表②
3	テーマ設定・研究方法の確定	19	中間発表③
4	資料・情報の収集方法	20	中間発表④
5	論文の構成方法	21	論文執筆・個別指導①
6	内容発表の方法・質疑応答・討議について	22	論文執筆・個別指導②
7	各自のテーマ・研究方法の発表①	23	論文執筆・個別指導③
8	各自のテーマ・研究方法の発表②	24	論文執筆・個別指導④
9	各自のテーマ・研究方法の発表③	25	論文内容の発表・質疑応答①
10	各自のテーマ・研究方法の発表④	26	論文内容の発表・質疑応答②
11	個別指導①	27	論文内容の発表・質疑応答③
12	個別指導②	28	論文内容の発表・質疑応答④
13	個別指導③	29	論文内容の発表・質疑応答⑤
14	個別指導④	30	卒業論文提出
15	まとめ	31	
16	後期日程について		

【履修上の注意事項】

各自のテーマ設定に基づき、論文作成計画を立案し、計画に沿って着実に論文作成作業を進めること。

【評価方法】

提出された論文により評価する。

【テキスト】

各自のテーマ及び研究過程で適宜紹介する。

【参考文献】

卒業論文

担当教員 山口 真也

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

前年度の「演習II」にて行った個人研究を学術研究へと展開して卒業研究を完成させるとともに、卒業論文作成に必要な基礎知識・技術を習得する。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	卒業論文とはなにか?・卒業論文執筆の心得	17	卒業論文の執筆方法1 引用・脚注
2	卒業論文の進め方・作業計画書の作成	18	卒業論文の執筆方法2 調査結果の整理方法
3	学術論文の書き方1 主題規定文の作成	19	卒業論文の執筆方法3 調査結果の分析方法
4	学術論文の書き方2 序論執筆・問題意識	20	卒業論文の執筆1 (個別相談期間)
5	学術論文の書き方3 序論執筆・検証方法	21	卒業論文の執筆2 (個別相談期間)
6	学術論文の書き方4 学術論の文体	22	卒業論文の執筆3 (個別相談期間)
7	学術論文の書き方5 調査の方法	23	卒業論文の執筆4 (個別相談期間)
8	資料収集の方法1 図書・新聞記事	24	卒業論文の提出(仮提出)
9	資料収集の方法2 雑誌記事・学術論文	25	卒業論文の添削・個別指導1
10	卒業論文の構成1 目次・章立ての方法	26	卒業論文の添削・個別指導2
11	卒業論文の構成2 目次・章立ての発表①	27	卒業論文の添削・個別指導3
12	卒業論文の構成3 目次・章立ての発表②	28	卒業論文の最終提出・抄録の書き方
13	卒業論文の構成4 目次・章立ての発表③	29	卒業論文集の作成・印刷
14	卒業論文の構成5 目次・章立ての発表④	30	卒業論文最終発表
15	卒業論文の構成6 目次・章立ての発表⑤	31	
16	卒業論文の様式・英語タイトルの決定		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

- 1) 演習課題の提出状況、出席状況を総合的に判断し、評価します。
- 2) 出席回数在全授業回数の2/3に満たない場合は単位を与えません。
- 3) 欠席する場合は欠席届を提出すること。(無断で欠席しないこと)

【テキスト】

【参考文献】

卒業論文

担当教員 狩俣 恵一

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

対象分野は、オモロ・琉歌・組踊・琉球の神話や伝説や歌謡等の琉球文学である。テーマの設定、資料収集を踏まえて、目次を作成しながら構想を立て、論文を執筆する。テーマは、「琉歌の研究」「オモロの研究」などという大きなテーマではなく、なるべく小さなテーマとし、資料収集は図書館を最大限に活用すること。特に、自分のテーマと関連する先学の論文は十分に読み込むこと。また、目次を立てることで、論文の全体構想が浮かび上がって来るが、その際、目次の項目ごとに凡その執筆分量の目安を立てること。

【授業の展開計画】

～授業のねらいのつづき～

執筆に当たって重要なことは、「書くこと」は「考えること」であり、また文章力という技術を要するということである。卒業論文は、ある意味では「書くこと」の苦しさを味わう作業であるとともに、論理的思考を養うものである。従って、実際に書き出す前に、ゼミの仲間同士で発表し合い、質疑応答を活発にして、論文の構想を練り上げるようにしてほしい。

【授業計画】

1. それぞれの研究テーマの確認と現段階の研究報告（目次の作成）
2. 資料収集と先行論文の報告
3. 後期の最初の時間には、400字詰原稿用紙20枚以上を提出すること。
4. 後期は主として個別指導を行う。

【履修上の注意事項】

発表者は、発表資料と発表用の原稿を分けて作成すること。

【評価方法】

卒業論文と平常点及び出席

【テキスト】

なし

【参考文献】

各自の研究テーマに応じてその都度指示する。

卒業論文

担当教員 西岡 敏

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

3年次で設定したテーマを4年次で卒業論文として結実させます。卒業論文提出者（4年次）は、琉球語諸方言についての様々な研究分野から、自分が関心を持っているテーマを選択して、先行研究をふまえつつ、調査・研究の掘り起こし作業を進めていきます。調査・研究の成果を中間発表し、他の人の質問や意見を参考にして、不十分なところを直していきます。それらを論文という形として文章化し、個別的な指導・添削を受けてまとめます。

【授業の展開計画】

卒論テーマの確定
全体の略図を考える（目次の作成）
先行研究の検索、収集、内容確認（参考文献目録の作成）
テーマに基づく調査および研究
中間発表および討論
注釈の付け方、文献引用の仕方
草稿の作成と提出
草稿の添削および個別指導
仮提出と添削
完全原稿の執筆および提出
卒論発表会

【履修上の注意事項】

個別的な面談を必要とします。必要とあればゼミ合宿を行いません。

【評価方法】

論文の内容、形式、取り組み方などの観点から総合的に判断します。

【テキスト】

その都度指示します。

【参考文献】

その都度指示します。

卒業論文

担当教員 仁野平 智明

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

各自の設定したテーマについて、先行研究をふまえたうえで、分析方法や論文の構成に関する方法論を身につけ、その成果を卒業論文としてまとめる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス	17	論の検証法
2	年間計画書作成	18	中間発表(1)
3	論文の構成、課題の見つけ方	19	中間発表(2)
4	文献・資料収集の方法および扱い方	20	中間発表(3)
5	研究概要の発表(1)	21	中間発表(4)
6	研究概要の発表(2)	22	中間発表(5)
7	研究概要の発表(3)	23	論文の執筆(1)・個別指導
8	研究概要の発表(4)	24	論文の執筆(2)・個別指導
9	研究概要の発表(5)	25	論文の執筆(3)・個別指導
10	研究概要の発表(6)	26	論文の執筆(4)・個別指導
11	研究概要の発表(7)	27	論文内容の発表・質疑応答(1)
12	研究概要の発表(8)	28	論文内容の発表・質疑応答(2)
13	研究概要の発表(10)	29	論文内容の発表・質疑応答(3)
14	研究概要の発表(11)	30	総括
15	前期の総括	31	
16	注釈の付け方・資料の整理法		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

論文の内容、取り組みの姿勢などによって評価する。

【テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

卒業論文

担当教員 大城 朋子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4.0

【授業のねらい】

テーマの最終設定、資料の収集と読み込み、論文の構想立て、実際の調査や分析等を行い、推敲を重ねるという一連の論文作成のプロセスを経て学術論文を完成させていきます。このような長期に渡る計画的で地道な研究を通して論理的な思考態度を身につけ、大学での学問の集大成とします。具体的には以下に示すような手順で進めます。

【授業の展開計画】

1. テーマの決定
2. 論文作成に関する構想と具体的年間計画を練る。
3. テーマに関する論文の目録を作成する。
4. 先行研究を読み込み、整理をしていく。
5. テーマを更に絞り込む。
6. 論文の目的・方法を検討する。
7. 仮説論証をする場合は、仮説を立てる。
8. 夏期休暇中に、本格的な調査を実施する。
9. 結果・分析・考察のまとめ
10. 論文仮提出（12月第2週目の金曜日）
11. 論文本提出（1月第2週目の土曜日）
12. 論文発表（2月第一週）

【履修上の注意事項】

上記の各プロセスの各段階で発表を繰り返し行っていくので、発表の頻度は高いものになります。準備を綿密に行うように。

【評価方法】

論文の内容を評価していきますが、論文完成に至までの過程における一連の課題や発表等への取り組みも評価の対象となります。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布します。

【参考文献】

各自が、論文に用いる参考文献の内容を他のゼミ生に紹介していきます。よって、参考文献は多岐にわたることになります。

卒業論文

担当教員 田場 裕規

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講は卒業論文の作成をめざすものである。対象は概ね「古代文学」（上代文学・中古文学）を扱うものとするが、国語科教育における古典教育（古典文学教育）に関する分野も対象とする。

【授業の展開計画】

卒業論文執筆の主体は学生個人である。以下に示す展開計画は、参考（目安）のために記載するが、研究計画はそれぞれが作成して取り組む。

- 1 卒業論文の要件
- 2 卒業論文の進め方・年間計画作成
- 3 先行研究の検索、収集、整理①
- 4 先行研究の検索、収集、整理②
- 5 先行研究の検索、収集、整理③
- 6 先行研究の検索、収集、整理④
- 7 研究方法の検討①
- 8 研究方法の検討②
- 9 研究方法の検討③
- 10 小テーマの設定①
- 11 小テーマの設定②
- 12 卒業論文テーマの確定
- 13 卒業論文の構成
- 14 卒業論文の構成の検討
- 15 中間発表会
- 16 卒業論文の目次・章立て①
- 17 卒業論文の目次・章立て②
- 18 卒業論文の執筆方法①
- 19 卒業論文の執筆方法②
- 20 卒業論文の執筆①
- 21 卒業論文の執筆②
- 22 卒業論文の執筆③
- 23 卒業論文の執筆④
- 24 仮提出と添削
- 25 添削・個別指導①
- 26 添削・個別指導②
- 27 添削・個別指導③
- 28 卒業論文提出
- 29 卒業論文集の作成
- 30 卒業論文発表会

【履修上の注意事項】

- ①学位論文であることを自覚し、自分自身の向き合うテーマに対して謙虚に取り組んで欲しい。
- ②調査・検討作業をレジュメ等にまとめるときは遺漏のないように努めること。
- ③提出締め切りは厳守すること。

【評価方法】

論文の内容、組み立て、取り組み状況等を総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて指示する。

【参考文献】

日本語教育実習Ⅱ

担当教員 大城 朋子

配当年次 4年

単位区分 必

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 実験実習

単位数 2.0

【授業のねらい】

大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。実習の内容として、ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価とフィードバックも行う。

【授業の展開計画】

実習では、まず、ニーズ調査やプレイスメント・テスト作成・実施を行った後、目標設定をし、コース・デザイン・指導案作成・教材作成と進んでいく。そして、リハーサルを行った後、実際に教壇に立つ。教壇実習が終了した後、評価とフィードバック、というプロセスを経る。

【履修上の注意事項】

「日本語表現法演習」「日本語現代文法」「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ」を履修済みのこと

【評価方法】

総合的に評価する。実習の準備から授業そして教材作成等すべてが評価の対象となる。

【テキスト】

配布資料と参考文献を中心に講義を行う。

【参考文献】

日本語教育実習Ⅰで示した参考文献を活用する。